

平成 2 7 年度

宮城県学力・学習状況調査

実施結果報告書

平成 2 7 年 9 月

宮城県教育委員会

はじめに

宮城県教育委員会では、昨年10月に7年ぶりに県独自の学力・学習状況調査を行い、今年4月には第2回目となる調査を実施しました。

本調査の目的は、宮城県の児童生徒の学力や学習状況及び学校の学習に係る取組、意識等を調査することにより、児童生徒の一層の学力向上に向け、学習指導の改善と家庭学習の充実を図るとともに、本調査の結果と全国学力・学習状況調査の結果を関連付けて分析し、学校における教育に関する継続的な検証改善サイクルの確立を図ることにあります。

調査の結果によると、小5、中2の全ての教科で期待値とのかい離は5ポイントの範囲内であり、有意差は見られませんでした。未だ震災による厳しい環境が続いている中、各学校で児童生徒と教師が困難を乗り越え、保護者、地域の方々と協力しながら、日々の教育活動を力強く進められてきた結果であると捉えております。

一方で、「基礎・基本」については、5ポイント以上の有意差は見られなかったものの、小5の算数を除いて期待値を下回り、さらに小5の国語、中2の英語では経年比較もマイナスであり課題が見られます。領域別では、小5の国語の「書くこと」、中2の数学の「関数」や中2の英語の「書くこと」で期待値を下回り、かい離も大きく改善が必要であると考えております。また、震災の影響として「授業に集中できない」「気持ちが落ち着かなくなる」と回答している小5の割合が増えていることから、今後とも子供の心のケアに努め、落ち着いて学習ができるよう学習環境の整備をより一層進めていく必要があります。

県教育委員会では、宮城県検証改善委員会を設置し、結果分析と対応策等について協議・検討を重ねてまいりました。この調査においては、児童生徒一人一人の学習状況を把握し、教師一人一人がこれまでの学習指導を振り返るとともに今後の授業改善に生かしていくことが求められます。今回の報告書では、各学校において、調査結果のクラス別解答状況一覧や誤答分析を活用し、児童生徒一人一人の状況に応じた補充指導を考えたり、教員一人一人が授業で提示した課題の適切さや指導方法を振り返ったりする際に生かせる内容を示しております。各学校で本報告書を積極的に活用するとともに、「学力向上に向けた5つの提言」や算数・数学の学力定着に向けた「ステップ・アップ5（ファイブ）」を踏まえた授業づくりを推進していくことが重要であると考えております。

本報告書が、各学校のみならず家庭や地域においても積極的に活用され、学校、家庭、地域が一体となって一層の学力向上への取組が進むよう期待しております。

平成27年9月

宮城県教育委員会教育長 高橋 仁

平成27年度 宮城県学力・学習状況調査

調査結果報告書

<目次>

はじめに

1 実施状況

(1) 調査の目的	1
(2) 調査実施期日	1
(3) 調査対象	1
(4) 調査事項及び内容	1
(5) 実施校	1
(6) 実施児童生徒数	1

2 調査結果

(1) 教科に関する調査結果	2
(2) 小学校第5学年国語の調査結果	3
(3) 小学校第5学年算数の調査結果	5
(4) 中学校第2学年国語の調査結果	7
(5) 中学校第2学年数学の調査結果	9
(6) 中学校第2学年英語の調査結果	11

3 調査結果の分析と活用

(1) 「学力調査結果」「児童生徒質問紙調査結果」の活用	13
(2) 国語の調査結果の分析と活用	14
(3) 算数・数学の調査結果の分析と活用	16
(4) 英語の調査結果の分析と活用	18

4 質問紙調査の概況

(1) 児童生徒質問紙調査の結果	
① 「学力向上に向けた5つの提言」と関連する事項	19
② 震災の影響と関連する事項	22
③ 学習の理解度と関連する事項	23
④ 基本的な生活習慣と関連する事項	24
⑤ 自尊意識・規範意識と関連する事項	26
(2) 学校質問紙調査の結果	
① 「学力向上に向けた5つの提言」と関連する事項	29
② 震災の影響と関連する事項	29
③ 指導方法と関連する事項	30
④ 学力向上に向けた取組と関連する事項	30
(3) 児童生徒質問紙結果と学校質問紙結果の乖離	31

5 今後の対応

《資料》

資料1 「学力向上に向けた5つの提言」	33
資料2 「算数・数学 ステップ・アップ5 (ファイブ)」	34
資料3 「基礎・基本の確実な定着を図るために」	40

平成27年度宮城県学力・学習状況調査結果について

宮城県教育委員会

1 実施状況

(1) 調査の目的

- ① 宮城県の児童生徒の学力や学習状況及び学校の学習に係る取組、意識等を調査することにより、児童生徒の一層の学力向上に向け、学習指導の改善と家庭学習の充実を図るとともに、今後の教育施策の企画・立案に活用する。
- ② 本調査の結果と全国学力・学習状況調査の結果を関連付けて分析することにより、学校における教育に関する継続的な検証改善サイクルの確立を図る。

(2) 調査実施期日

平成27年4月14日（火）

(3) 調査対象（仙台市を除く）

- ① 小学校5年生及び特別支援学校小学部5年生の全児童
- ② 中学校2年生及び特別支援学校中学部2年生の全生徒

(4) 調査事項及び内容

- ① 教科に関する調査
 - ・小学校5年生：国語，算数
 - ・中学校2年生：国語，数学，英語
 - ※基礎・基本に関する問題が全体の約8割
 - ※思考力・判断力・表現力に関する問題が全体の約2割
- ② 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査
 - ・児童生徒に対する調査
 - ・学校に対する調査

(5) 実施校（仙台市を除く）

- ① 小学校調査 267校
- ② 中学校調査 142校

(6) 実施児童生徒数（仙台市を除く）

- ① 小学校調査 10,949人
- ② 中学校調査 11,532人

2 調査結果

(1) 教科に関する調査結果

- 全体の平均正答率では、小5、中2の全ての教科で「期待値」※1とのかい離は5ポイントの範囲内であり、有意差は見られなかったが、小5の国語は、期待値とのかい離が大きく課題が見られる。
- 「基礎・基本」については、5ポイント以上の有意差は見られなかったが、小5の国語、中2の全ての教科で期待値を下回っており、やや課題が見られる。小5の国語は、期待値とのかい離が大きく課題が見られる。
- 「思考力・判断力・表現力」については、5ポイント以上の有意差は見られなかったが、小5の国語、中2の国語、英語は期待値を下回っており、かい離も大きく課題が見られる。
- 小5の国語、中2の英語は、全ての経年比較でマイナスであり、課題が見られる。
- 小5の算数、中2の数学は、全ての経年比較がプラスとなり、改善傾向が見られる。

＜表1＞学年・教科ごとの宮城県平均正答率（全体、基礎・基本、思考力・判断力・表現力）

（単位 %）

校種	教科	年度	全体				基礎・基本				思考力・判断力・表現力			
			県平均正答率	期待値	期待値との比較※2	経年比較※3	県平均正答率	期待値	期待値との比較	経年比較	県平均正答率	期待値	期待値との比較	経年比較
小学校	国語	H27	62.0	66.7	-4.7	-0.8	64.8	69.5	-4.7	-0.6	46.0	50.2	-4.2	-1.4
		H26	63.8	67.7	-3.9		67.9	72.0	-4.1		46.0	48.8	-2.8	
	算数	H27	71.3	70.5	0.8	0.4	73.3	73.0	0.3	0.5	61.8	59.0	2.8	0.0
		H26	74.4	74.0	0.4		76.2	76.4	-0.2		67.5	64.7	2.8	
中学校	国語	H27	62.9	64.9	-2.0	0.3	66.8	68.3	-1.5	0.8	45.6	49.7	-4.1	-2.4
		H26	65.3	67.6	-2.3		67.4	69.7	-2.3		53.7	55.4	-1.7	
	数学	H27	61.8	63.0	-1.2	3.1	63.3	64.9	-1.6	2.9	56.2	56.0	0.2	3.6
		H26	58.9	63.2	-4.3		61.5	66.0	-4.5		49.7	53.1	-3.4	
	英語	H27	65.6	68.3	-2.7	-1.3	71.2	73.5	-2.3	-0.8	47.5	51.1	-3.6	-2.2
		H26	69.3	70.7	-1.4		73.8	75.3	-1.5		53.9	55.3	-1.4	

※1 「期待値」について

全国的な水準で期待すべき想定平均正答率を県が設定した参考値である。

※2 「期待値との比較」について

県平均正答率と期待値とのかい離を表した値である。

※3 「経年比較」について

H27の「期待値との比較」の値をH26の値と比較したものである。調査年度により、調査問題、対象児童生徒が異なるため県平均正答率ではなく、「期待値との比較」の値の差によって比較した。

(2) 小学校第5学年国語の調査結果

○「書くこと」、「話すこと・聞くこと」に課題がある。

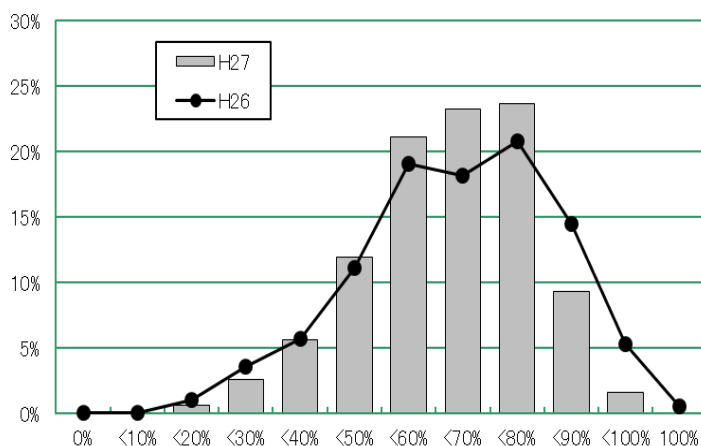
- ・「教科全体」、「基礎・基本」及び「思考力・判断力・表現力」ともに、5ポイント以上の有意差は見られなかったものの、期待値を下回っており、かい離は大きい。経年比較もマイナスとなっており、課題が見られる。
- ・「書くこと」については、期待値との比較、経年比較の両面から見て課題がある。また、「話すこと・聞くこと」については、期待値との比較では有意差は見られないが、経年比較においてマイナスとなっており、課題が見られる。「読むこと」及び「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、期待値との比較でやや課題は見られるものの、経年比較ではプラスになっており、改善傾向が見られる。

<表2> 領域別平均正答率

(単位 %)

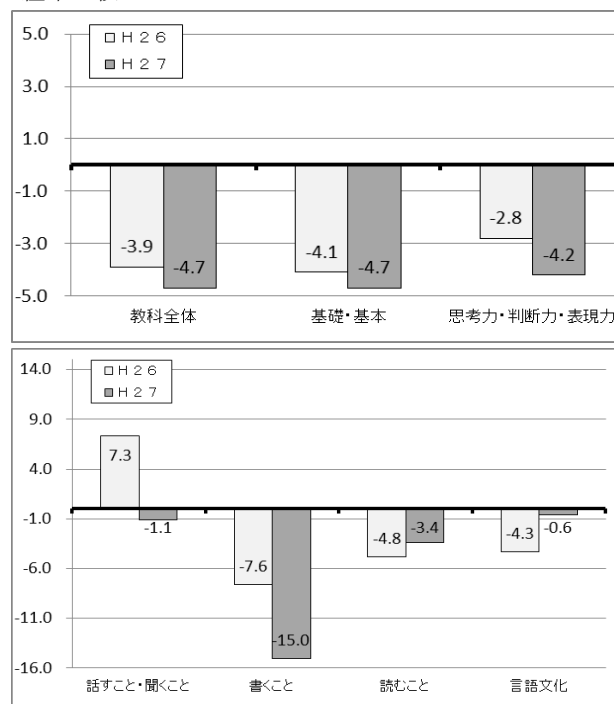
分類	区分	年度	県平均正答率	期待値	期待値との比較	経年比較
全体・基礎・活用	教科全体	H27	62.0	66.7	-4.7	-0.8
		H26	63.8	67.7	-3.9	
	基礎・基本	H27	64.8	69.5	-4.7	-0.6
		H26	67.9	72.0	-4.1	
	思考力・判断力・表現力	H27	46.0	50.2	-4.2	-1.4
		H26	46.0	48.8	-2.8	
領域	話すこと・聞くこと	H27	70.5	71.6	-1.1	-8.4
		H26	68.6	61.3	7.3	
	書くこと	H27	54.8	69.8	-15.0	-7.4
		H26	59.9	67.5	-7.6	
	読むこと	H27	55.9	59.3	-3.4	1.4
		H26	61.2	66.0	-4.8	
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	H27	68.6	69.2	-0.6	3.7
		H26	66.9	71.2	-4.3	

★正答率度数分布



※4 「★経年比較」は、「期待値との比較」の値をグラフ化し、経年比較を表したものである。以下のグラフにおいて同じ。

★経年比較 ※4



【小問別の問題内容と正答率(小学校 国語)】

通し番号	大問番号	中間番号	小問番号	解答形式	観点				活用観点	領域	問題の内容	出題のねらい	学習指導要領	県正答率	期待値	無回答		
					話	書	読	言										
1	1	(1)		選択	◎				話すこと・聞くこと	話し合いの内ようを聞き取る	話の中心に気をつけて聞くことができる。	3・4年A(1)エ	96.6	95.9	0.1			
2		(2)	選択	◎				85.7					81.1	0.2				
3		(3)	記述	◎	○			表					互いの考えの相違点や共通点を考えながら、進んで話し合おうとすることができる。	3・4年A(1)エ・オ	▼ 29.3	37.9	9.2	
4	2	(1)	①	短答				◎	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	漢字を読む	第4学年配当漢字を読むことができる。	3・4年伝国(1)ウ(イ)	98.2	96.8	0.8			
5			②	短答				◎					99.2	98.6	0.2			
6			③	短答				◎					98.1	96.4	0.6			
7		(2)	①	短答				◎		漢字を書く	第4学年配当漢字を書くことができる。		△ 70.8	62.7	8.2			
8			②	短答				◎					△ 80.3	69.7	6.9			
9			③	短答				◎					△ 82.0	72.7	6.5			
10	3	(1)		選択				伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	言葉の学習	文の構成(連体修飾語)を理解している。	3・4年伝国(1)イ(キ)	88.1	86.0	0.2				
11		(2)		選択								ローマ字を理解している。	3・4年伝国(1)ウ(ア)	▼ 35.1	49.2	2.0		
12		(3)	①	短答								◎	文の定義を理解している。	1・2年伝国(1)イ(カ)	▼ 18.9	36.5	28.1	
13			②	短答		○						◎	文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くことができる。	3・4年伝国(1)イ(ク)	▼ 15.4	23.4	14.2	
14	4	ア		短答				書くこと	資料から読み取ったことを書く	目的に応じて資料を読み、分かったことを的確に書くことができる。	3・4年B(1)ウ	▼ 22.5	72.4	7.9				
15		イ		記述								◎	43.4	44.9	18.5			
16	5	(1)		選択				読むこと	物語の内ようを読み取る	場面の情景を、叙述を基に想像しながら読むことができる。	3・4年C(1)ウ	78.3	80.1	0.7				
17		(2)		選択								◎	40.6	44.7	1.1			
18		(3)		選択								◎	思	48.7	46.5	2.1		
19	6	(1)		選択				読むこと	説明文の内ようを読み取る	中心となる語や文をとらえて、段落相互の関係を考えることができる。	3・4年C(1)イ	▼ 57.4	65.0	1.2				
20		(2)		選択								◎	86.7	86.8	1.3			
21		(3)		選択								◎	目的に応じて、内容を大きくまとめながら読むことができる。	29.7	34.7	2.4		
22	7	(1)		選択				読むこと	遠足のしおりと話し合いを読み取る	資料を目的に応じて読み、内容を的確にとらえることができる。	3・4年C(1)イ	▼ 74.3	82.3	3.3				
23		(2)		記述		○						◎	表	資料を読み取って、適切な言葉を使って文を書き直すことができる。	31.8	34.2	21.4	
24	8			記述				書くこと	作文	指定された長さで文章を書くことができる。	3・4年B(1)ア	▼ 58.4	70.8	17.0				
25				記述								◎	○	2段落構成で文章を書くことができる。	3・4年B(1)イ	▼ 52.2	60.7	17.0
26				記述								◎		中心を明確にしなが、段落の続き方に注意して書くことができる。	3・4年B(1)ウ	▼ 77.8	85.8	17.0
27				記述								◎		▼ 74.6	84.0	17.0		

※「県平均正答率」において、△期待値とのかい離が5ポイント以上上回ったもの。▼は期待値とのかい離が-5ポイント以上下回ったもの。

※「通し番号」及び「出題のねらい」において、網掛けはこれまでの全国学力・学習状況調査において課題となっている問題

(3) 小学校第5学年算数の調査結果

○「数と計算」、「量と測定」、「数量関係」については概ね身に付いているが、「図形」にやや課題がある。

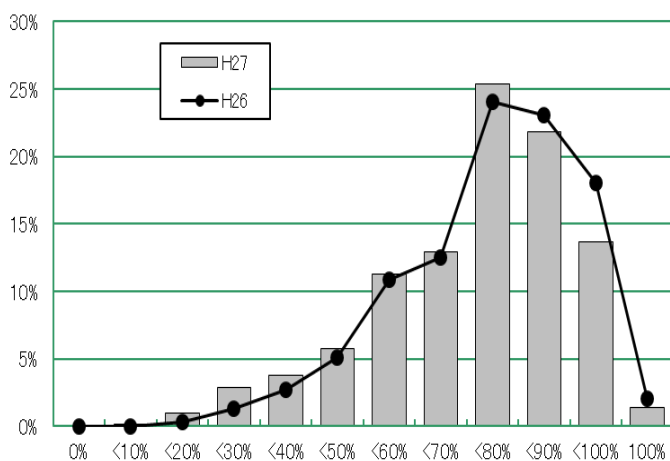
- ・「教科全体」、「基礎・基本」、「思考力・判断力・表現力」について、全て期待値を上回り、経年比較でもプラスであり改善傾向が見られる。
- ・「図形」は、期待値との比較では有意差は見られないが、経年比較でマイナスとなっており、やや課題が見られる。

＜表3＞ 領域別平均正答率

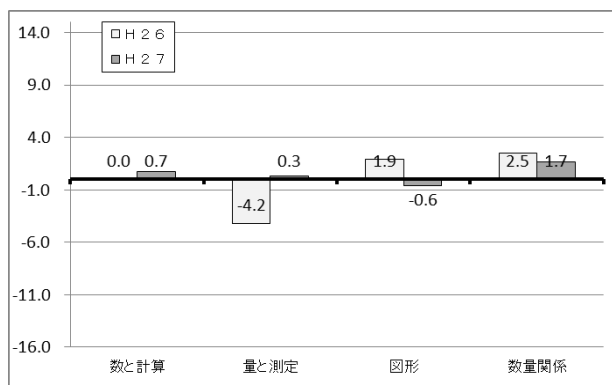
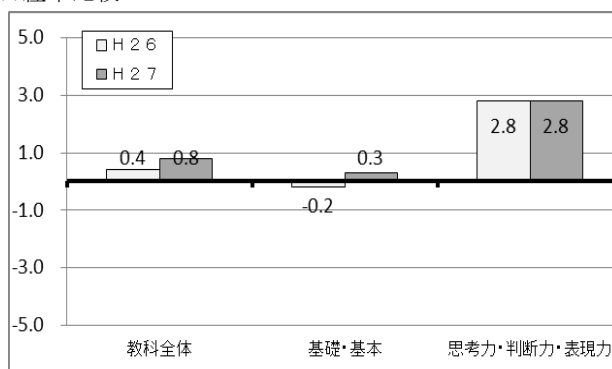
(単位 %)

分類	区分	年度	県平均 正答率	期待値	期待値との 比較	経年 比較
全体 ・ 基礎 ・ 活用	教科全体	H27	71.3	70.5	0.8	0.4
		H26	74.4	74.0	0.4	
	基礎・基本	H27	73.3	73.0	0.3	0.5
		H26	76.2	76.4	-0.2	
	思考力・判断力・表現力	H27	61.8	59.0	2.8	0.0
		H26	67.5	64.7	2.8	
領域	数と計算	H27	78.9	78.2	0.7	0.7
		H26	78.4	78.4	0.0	
	量と測定	H27	77.1	76.8	0.3	4.5
		H26	74.9	79.1	-4.2	
	図形	H27	65.1	65.7	-0.6	-2.5
		H26	75.8	73.9	1.9	
	数量関係	H27	59.2	57.5	1.7	-0.8
		H26	67.9	65.4	2.5	

★正答率度数分布



★経年比較



【小問別の問題内容と正答率(小学校 算数)】

通し番号	大問番号	中問番号	小問番号	解答形式	観点			活用観点	領域	問題の四角	出題のねらい	学習指導要領	県正答率	期待値	無回答
					考	技	知								
1	1		(1)	選択	◎			数と計算	わり算	3けた÷1けた(余りあり)の除法の筆算ができる。	4年A(3)イ	81.8	86.4	0.1	
2			(2)	選択	◎					3けた÷2けた(余りあり)の除法の筆算ができる。		78.3	80.6	1.1	
3	2		(1)	短答	◎			数と計算	小数	小数(小数第一位)×整数の乗法の計算ができる。	4年A(5)ウ	80.9	82.8	0.8	
4			(2)	短答	◎					整数-小数第二位の減法の計算ができる。		4年A(5)イ	△ 66.0	57.2	2.2
5			(3)	短答	◎					小数(小数第一位)÷整数の除法の計算ができる。		4年A(5)ウ	▼ 77.6	84.5	2.8
6			(4)	短答	◎					分数		分母が同じ帯分数の減法の計算ができる。	4年A(6)イ	80.7	76.6
7	3		(1)	選択	○	◎		数と計算	億と兆	命数法で書かれた数を記数法で表すことができる。	4年A(1)ア	80.2	79.0	0.2	
8			(2)	選択	◎	○				8兆を10でわった数を求めることができる。		84.3	89.3	0.3	
9			(3)	選択	◎	○				数直線上に示された整数をよみとることができる。		84.6	82.4	0.2	
10	4		(1)	選択	○	◎		数と計算	小数	小数のしくみを理解している。	4年A(5)ア	92.8	91.3	0.1	
11			(2)	選択	○	◎				小数の相対的な大きさについて理解している。		91.6	91.6	0.3	
12	5			短答	◎	○		数と計算	小数	文章問題を解くための整数÷整数=小数第一位の除法の立式ができる。	4年A(5)ウ	52.7	51.6	4.7	
13	6			短答		◎		数と計算	分数	分子が1の分数が何個で1になるかを理解し、答えることができる。	4年A(6)ア、イ	81.4	84.8	3.1	
14	7			選択	○	◎	思	数と計算	分数	帯分数、仮分数、整数を大小順に並べることができる。	4年A(6)ア、イ	76.7	73.6	2.1	
15	8		(1)	選択		◎		数と計算	がい数の表し方	一万の位までの概数の表し方を理解している。	4年A(2)イ	80.7	79.9	0.6	
16			(2)	短答	○	◎				示された位までの概数にする際、一つ下の位の数を四捨五入して処理する方法について理解している。		4年A(2)イ	△ 72.0	60.2	2.1
17	9		(1)	選択	○	◎		量と測定	角の大きさ	分度器の中に示された角の大きさを測り、求めることができる。	4年B(2)ア、イ	65.7	62.8	0.4	
18			(2)	選択	○	◎	○			交わる2直線がつくる隣り合った角の大きさを求めることができる。		4年B(2)ア、イ	79.3	78.2	1.0
19	10			選択	○	◎		量と測定	面積	縦と横の長さから、長方形の面積を求めることができる。	4年B(1)イ	88.5	89.1	0.8	
20	11			選択	◎		思	量と測定	面積	複合図形で、面積を求める式から求め方がわかる。	4年B(1)イ	74.9	77.0	0.7	
21	12			選択	○	◎		図形	いろいろな形	作図に用いられている図形の約束や性質を理解している。	4年C(1)イ	▼ 46.8	52.0	0.9	
22	13			選択		◎		図形	いろいろな形	四角形の対角線の性質を理解している。	4年C(1)イ	44.4	45.4	1.2	
23	14		(1)	選択	○	◎		図形	いろいろな形	立方体の見取図から、垂直な面を求めることができる。	4年C(2)イ	86.3	83.3	0.6	
24			(2)	選択	○	◎				立方体の展開図を理解している。		4年C(2)ア	82.8	82.1	0.7
25	15		(1)	選択	◎	○		数量関係	計算のきまり・変わり方調べ	()を用いた四則の混合した式の計算の順序を理解している。	4年D(2)ア	68.1	70.5	1.4	
26			(2)	選択	○	◎	○			分配法則を理解している。		4年D(3)ア	38.9	38.8	3.0
27	16		(1)	短答	◎	○		数量関係	計算のきまり・変わり方調べ	伴って変わる二つの数量の関係を表に表すことができる。	4年D(2)ウ	▼ 78.6	92.5	4.7	
28			(2)	短答	◎	○				伴って変わる二つの数量の関係を式に表すことができる。		39.0	42.7	11.4	
29	17		(1)	選択		◎		数量関係	折れ線グラフと表	折れ線グラフの任意の点を読み取ることができる。	4年D(4)イ	△ 87.1	72.2	1.5	
30			(2)	選択	○	◎				折れ線グラフの変化について理解し、グラフを読み取ることができる。		△ 61.5	55.1	1.8	
31			(3)	記述	○	◎	表			2つの折れ線グラフの特徴と有用性を理解している。		△ 58.9	47.7	16.5	
32	18		(1)	記述	○	◎	表	数量関係	折れ線グラフと表	二次元表の読み方を理解している。	4年D(4)ア	△ 70.2	63.5	10.8	
33			(2)	選択	○	◎	思			二次元表を読み取り、縦と横の分類項目を見て、対象のマスが表す数がわかる。		71.9	68.9	8.1	
34			(3)	短答	○	◎	思			二次元表を利用し、問題を解くことができる。		▼ 18.1	23.3	17.3	

※「県平均正答率」において、△期待値とのかい離が5ポイント以上上回ったもの。▼は期待値とのかい離が-5ポイント以下下回ったもの。

※「通し番号」及び「出題のねらい」において、網掛けはこれまでの全国学力・学習状況調査において課題となっている問題

(4) 中学校第2学年国語の調査結果

○「書くこと」に改善が見られるが、他の領域において課題がある。

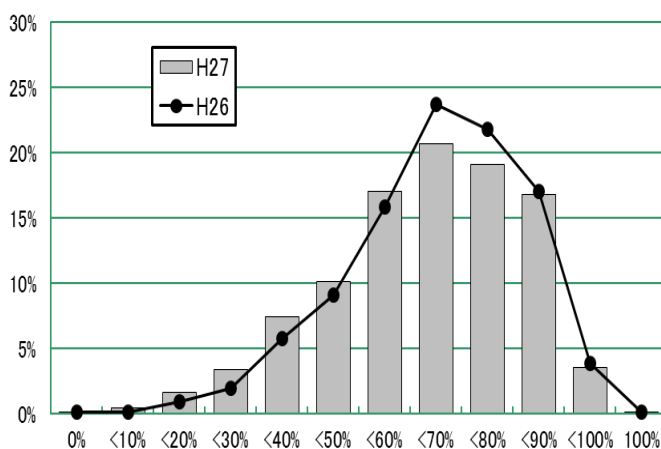
- ・「教科全体」, 「基礎・基本」及び「思考力・判断力・表現力」ともに、5ポイント以上の有意差は見られなかったものの、期待値を下回っておりやや課題が見られたが、「教科全体」と「基礎・基本」は経年比較でプラスとなり、改善傾向も見られる。
- ・「書くこと」については、期待値を5ポイント以上上回り、経年比較も大きくプラスとなったことから改善が見られる。他の領域については期待値を下回り、期待値とのかい離もやや大きく、経年比較もマイナスとなっていることから課題がある。

<表4> 領域別平均正答率

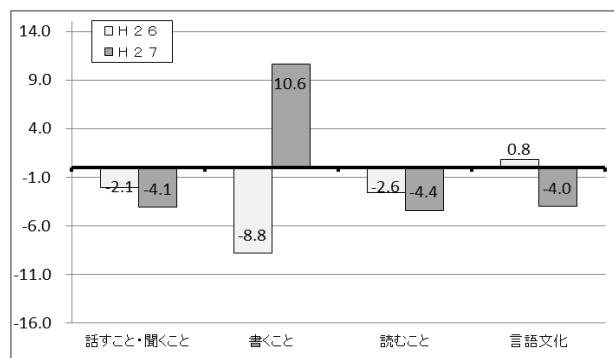
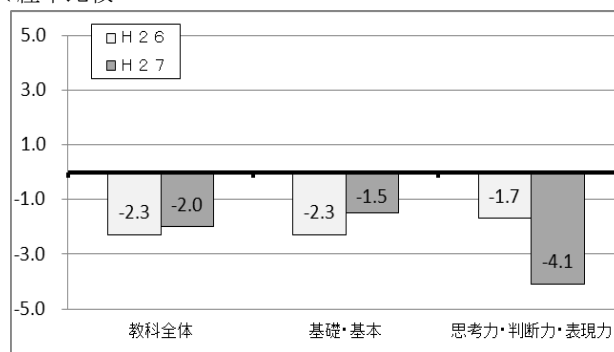
(単位 %)

分類	区分	年度	県平均正答率	期待値	期待値との比較	経年比較
全体・基礎・活用	教科全体	H27	62.9	64.9	-2.0	0.3
		H26	65.3	67.6	-2.3	
	基礎・基本	H27	66.8	68.3	-1.5	0.8
		H26	67.4	69.7	-2.3	
	思考力・判断力・表現力	H27	45.6	49.7	-4.1	-2.4
		H26	53.7	55.4	-1.7	
領域	話すこと・聞くこと	H27	76.0	80.1	-4.1	-2.0
		H26	75.3	77.4	-2.1	
	書くこと	H27	73.2	62.6	10.6	19.4
		H26	67	75.8	-8.8	
	読むこと	H27	55.1	59.5	-4.4	-1.8
		H26	59.9	62.5	-2.6	
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	H27	60.4	64.4	-4.0	-4.8
		H26	65.5	64.7	0.8	

★正答率度数分布



★経年比較



【小問別の問題内容と正答率(中学校 国語)】

通し番号	大問番号	中問番号	小問番号	解答形式	観点				活用観点	領域	問題の内容	出題のねらい	学習指導要領	県正答率	期待値	無回答
					話	書	読	言								
1	1	(1)		選択	◎				話すこと・聞くこと	話し合いの内容を聞き取る	話の内容を正確に聞き取ることができる。	1年A(1)エ	97.2	97.9	0.9	
2				選択	◎						聞き手に理解してもらうための話し方の工夫を聞き取ることができる。		72.5	73.4	1.0	
3				選択	◎								87.3	83.9	1.0	
4	2	(1)		選択	◎			話すこと・聞くこと	話し合いの司会の役割をとらえる	話し合いの方向をとらえて司会の役割を果たすことができる。	1年A(1)オ	▼ 63.1	90.5	1.1		
5				短答	◎							△ 60.1	54.7	0.3		
6	3	(1)		① 短答				◎	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	漢字を読む	第1学年までに学習した漢字を読むことができる。	1年伝国(1)ウ(ア)	△ 85.5	80.2	6.2	
7				② 短答				◎					75.3	74.6	6.9	
8				③ 短答				◎					98.7	98.8	0.4	
9				④ 短答				◎					58.3	53.4	10.0	
10		(2)			① 短答				◎	漢字を書く	小学校で学習した漢字を書くことができる。	1年伝国(1)ウ(イ)	▼ 51.8	69.3	20.1	
11					② 短答				◎				▼ 53.9	60.1	22.0	
12					③ 短答				◎				▼ 59.5	73.0	30.6	
13					④ 短答				◎				△ 64.0	45.3	27.2	
14		4	(1)		短答				◎	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	文法・語句に関する知識	文節について理解している。	1年伝国(1)イ(エ)	▼ 17.3	30.6	1.1
15					短答				◎			文の成分について理解している。		47.8	51.8	4.0
16	選択							◎	漢字の音訓について理解している。			1年伝国(1)ウ(ア)		▼ 73.2	86.2	1.1
17	短答							◎	歴史的仮名づかいを現代仮名づかいに直すことができる。			1年伝国(1)ア(ア)		▼ 39.4	50.0	15.7
18	5	(1)		選択				◎	読むこと	説明文の内容を読み取る	文章の展開に即して内容をとらえることができる。	1年C(1)イ	73.4	76.7	1.4	
19				選択				◎			文脈の中の語句の意味を正確にとらえて、自分の意見をまとめることができる。		43.2	47.5	1.6	
20				記述	○	◎		表			文章の展開に即して内容をとらえて、要約することができる。		29.6	32.7	19.1	
21				選択				◎			文章の構成や展開をとらえることができる。		1年C(1)エ	▼ 63.0	68.6	1.8
22	6	(1)		選択				◎	読むこと	文学作品の内容を読み取る	登場人物の心情をとらえることができる。	1年C(1)ウ	▼ 83.5	88.8	1.5	
23				選択				◎			場面の展開をとらえることができる。		▼ 45.5	53.5	2.5	
24				選択				◎			登場人物の心情の変化をとらえることができる。		67.0	69.0	2.0	
25				選択				◎			登場人物の心情の変化をとらえ、それをまとめることができる。		▼ 38.4	45.6	2.5	
26	7	(1)		選択				◎	読むこと	2つの資料の内容を読み取る	2つの資料を正しく読み取り、必要な情報とそうでない情報を整理することができる。	1年C(1)エ	68.8	73.6	2.7	
27				記述	○	◎		表			2つの資料を正しく読み取り、出された意見に応じて文章を適切に書き直すことができる。		38.2	40.2	16.5	
28				選択				◎			思		2つの資料を正しく読み取り、欠けている情報を見つけることができる。	55.5	58.8	4.2
29	8			記述	◎				書くこと	作文	指定された文字数で書くことができる。	1年B(1)イ	△ 69.5	62.0	13.2	
30				記述	◎		○				3段落構成で文章を書くことができる。		△ 63.8	51.5	13.2	
31				記述	◎							78.6	75.8	13.2		
32				記述	◎							伝えたい事柄を明確にして書くことができる。	1年B(1)ウ	△ 81.0	66.1	13.2
33				記述	◎							△ 73.0	57.5	13.2		

※「県平均正答率」において、△期待値とのかい離が5ポイント以上上回ったもの。▼は期待値とのかい離が-5ポイント以上下回ったもの。

※「通し番号」及び「出題のねらい」において、網掛けはこれまでの全国学力・学習状況調査において課題となっている問題

(5) 中学校第2学年数学の調査結果

○「関数」に課題がある。

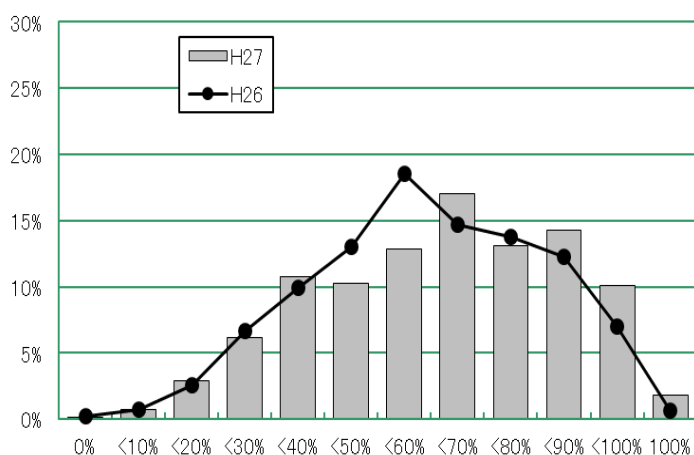
- ・「思考力・判断力・表現力」以外は、期待値をやや下回っており課題が見られるが、経年比較が全てにおいてプラスとなっており改善傾向が見られる。
- ・「資料の活用」では、期待値との比較、経年比較ともに大きくプラスになり、改善傾向が見られる。「関数」では、5ポイント以上の有意差は見られないが、期待値を下回り、経年比較も横ばいであることからやや課題が見られる。

<表5> 領域別平均正答率

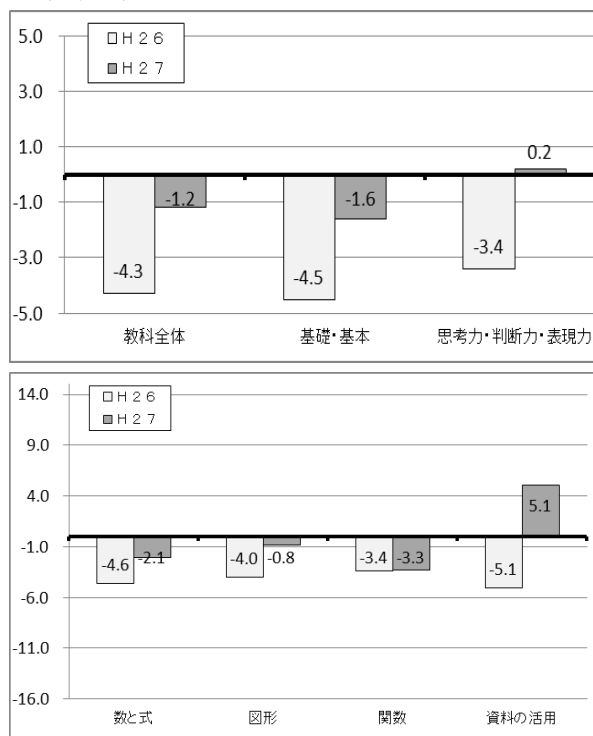
(単位 %)

分類	区分	年度	県平均正答率	期待値	期待値との比較	経年比較	
全体・基礎・活用	教科全体	H27	61.8	63.0	-1.2	3.1	
		H26	58.9	63.2	-4.3		
	基礎・基本	H27	63.3	64.9	-1.6	2.9	
		H26	61.5	66.0	-4.5		
	活用	思考力・判断力・表現力	H27	56.2	56.0	0.2	3.6
			H26	49.7	53.1	-3.4	
領域	数と式	H27	66.7	68.8	-2.1	2.5	
		H26	63.6	68.2	-4.6		
	図形	H27	59.3	60.1	-0.8	3.2	
		H26	49.3	53.3	-4.0		
	関数	H27	57.0	60.3	-3.3	0.1	
		H26	57.9	61.3	-3.4		
	資料の活用	H27	52.0	46.9	5.1	10.2	
		H26	61.2	66.3	-5.1		

★正答率度数分布



★経年比較



【小問別の問題内容と正答率(中学校 数学)】

通し番号	大問番号	中間番号	小問番号	解答形式	観点			活用観点	領域	問題の内容	出題のねらい	学習指導要領	県正答率	期待値	無回答
					考	技	知								
1	1		(1)	短答	◎			数と式	正の数・負の数	正負の数の減法の計算ができる。	中学1年A(1)ウ	69.3	72.4	1.9	
2			(2)	短答	◎					負の数の累乗を含む乗法の計算ができる。		74.4	76.5	1.4	
3	2		(1)	短答	◎			数と式	文字式	かっこを含む文字式の計算ができる。	中学1年A(2)ウ	▼ 47.4	61.4	4.3	
4			(2)	短答	◎					分配法則を用いる文字式の計算ができる。		▼ 75.2	81.2	5.1	
5	3		(1)	選択	◎	○		数と式	1次方程式	方程式とその解の関係を理解し、与えられた解をもつ方程式を選択することができる。	中学1年A(3)ア,ウ	65.1	69.6	1.2	
6			(2)	短答	◎					1次方程式を解くことができる。		中学1年A(3)ウ	78.6	81.8	6.4
7			(3)	短答	◎	○						比例式を解くことができる。	△ 74.4	68.5	5.9
8	4		(1)	短答		◎		数と式	正の数・負の数	数直線上の点の表す数を読むことができる。	中学1年A(1)ア	86.1	84.5	0.8	
9			(2)	短答	○	◎				4つの負の数の大小を比較することができる。		89.7	90.8	0.8	
10	5			記述	◎	○		表	数と式	正の数・負の数	基準との差を利用した5人の生徒の平均点の求め方の説明を読み、その誤りを説明することができる。	中学1年A(1)エ	△ 39.1	31.7	16.7
11	6		(1)	選択		◎		数と式	文字式	文字を用いた式の表し方を理解している。	中学1年A(2)イ	91.3	92.2	0.7	
12			(2)	選択	◎	○				式の値を求めるにはどうすればよいのかを理解し、xの値を代入して式の値を求めることができる。		中学1年A(2)	66.5	70.9	1.1
13			(3)	選択	◎	○				数量の大小関係を不等式で表すことができる。		中学1年A(2)エ	67.8	72.2	0.9
14			(4)	選択		◎				項とは何かを理解し、文字式における項を答えることができる。		中学1年A(2)	70.8	74.5	1.0
15	7			選択	◎	○	思	数と式	1次方程式	式の中のある文字式が文章題の何を表しているかを答えることができる。	中学1年A(3)ウ	68.5	69.4	0.8	
16	8		ア	短答	◎			数と式	1次方程式	方程式のxが何を表しているのかわかる。	中学1年A(3)ウ	34.9	35.6	18.4	
17			イ	短答	◎		思					34.2	36.1	20.6	
18	9		(1)	選択	◎	○		関数	比例・反比例	x, yの比例を表す表から、比例の式を求めることができる。	中学1年C(1)エ	▼ 49.6	56.3	1.4	
19			(2)	選択	◎	○				反比例の関係にある1組のx, yの値から、与えられたxの値に対応するyの値を求めることができる。		▼ 32.4	45.3	2.3	
20			(3)	短答	◎	○				比例の式から、そのグラフをかきことができる。		43.3	41.4	6.3	
21	10		(1)	選択	○	◎		図形	平面図形・空間図形	回転移動させる角度を求めることができる。	中学1年B(1)イ	59.1	60.5	0.8	
22			(2)	選択	○	◎				点Pを通る垂線の作図の手順を正しく選択することができる。		中学1年B(1)ア	76.6	75.9	1.2
23	11		(1)	選択		◎		図形	平面図形・空間図形	空間における2直線の位置関係を理解している。	中学1年B(2)ア	56.5	56.7	2.4	
24			(2)	選択	○	◎				投影図から、立体の形を判断することができる。		中学1年B(2)イ	84.2	83.6	0.9
25	12		(1)	選択	◎	○		図形	平面図形・空間図形	四角錐の体積を求めることができる。	中学1年B(2)ウ	45.5	47.5	1.2	
26			(2)	選択		◎				球の表面積を求める式を選択できる。		33.9	36.5	1.5	
27	13		(1)	選択	○	◎		資料の活用	資料の散らばりと代表値	度数分布表から、階級の相対度数を求めることができる。	中学1年D(1)ア	△ 64.2	52.7	2.2	
28			(2)	選択		◎				近似値の真の値の範囲を選択することができる。		△ 45.7	38.0	2.6	
29			(3)	選択	○	◎				中央値の意味を理解している。		57.2	54.4	2.6	
30	14			短答		◎		資料の活用	資料の散らばりと代表値	最頻値の意味を理解している。	中学1年D(1)ア	41.0	42.4	23.7	
31	15		(1)	選択		◎	思	関数	比例・反比例	印刷している時間と印刷できる枚数が比例の関係であることがわかる。	中学1年C(1)オ	84.0	84.5	2.1	
32			(2)	短答	○	◎	思			印刷している時間と印刷できる枚数の関係を式に表すことができる。		68.5	66.9	11.8	
33			(3)	記述	◎	○	表			問題文から正しいグラフを判断し、その理由を説明できる。		64.1	67.6	5.6	

※「県平均正答率」において、△期待値とのかい離が5ポイント以上上回ったもの。▼は期待値とのかい離が-5ポイント以上下回ったもの。

※「通し番号」及び「出題のねらい」において、網掛けはこれまでの全国学力・学習状況調査において課題となっている問題

(6) 中学校第2学年英語の調査結果

○「書くこと」は改善傾向が見られるが、「聞くこと」とともに課題がある。

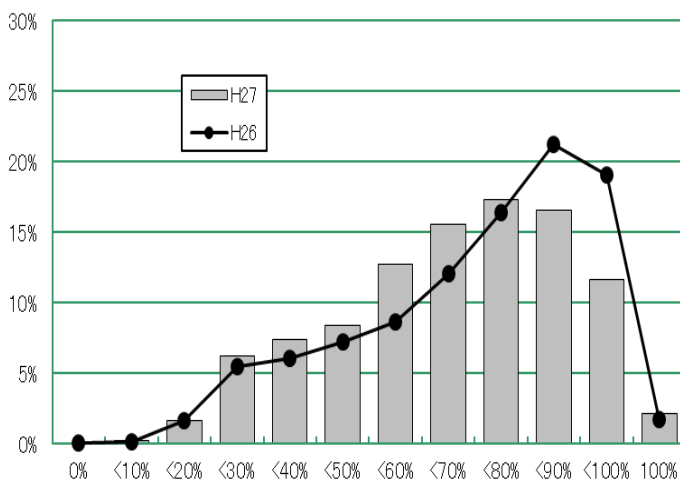
- ・全ての区分で期待値を下回っており、課題が見られる。
- ・「聞くこと」は、期待値との比較では有意差はないが、経年比較では大きくマイナスとなっており、課題が見られる。「書くこと」は、期待値を下回っており課題は残るが、経年比較では大きくプラスとなっていることから、改善傾向が見られる。

<表6> 領域別平均正答率

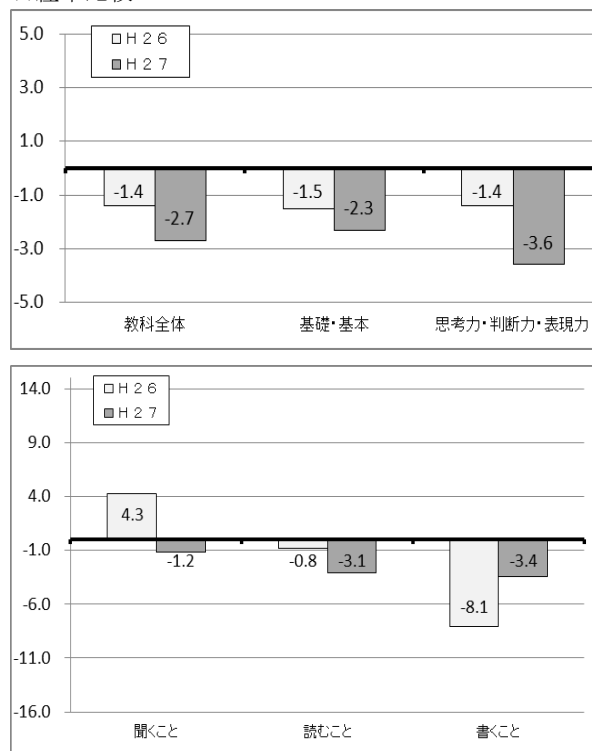
(単位 %)

分類	区分	年度	県平均正答率	期待値	期待値との比較	経年比較
全体 ・ 基礎 ・ 活用	教科全体	H27	65.6	68.3	-2.7	-1.3
		H26	69.3	70.7	-1.4	
	基礎・基本	H27	71.2	73.5	-2.3	-0.8
		H26	73.8	75.3	-1.5	
	思考力・判断力・表現力	H27	47.5	51.1	-3.6	-2.2
		H26	53.9	55.3	-1.4	
領域	聞くこと	H27	77.5	78.7	-1.2	-5.5
		H26	76.2	71.9	4.3	
	読むこと	H27	63.4	66.5	-3.1	-2.3
		H26	70.9	71.7	-0.8	
	書くこと	H27	58.3	61.7	-3.4	4.7
		H26	60.0	68.1	-8.1	

★正答率度数分布



★経年比較



【小問別の問題内容と正答率(中学校 英語)】

通し番号	大問番号	中問番号	小問番号	解答形式	観点			活用観点	領域	問題の内容	出題のねらい	学習指導要領	県正答率	期待値	無回答
					表	理	知								
1	1	(1)		選択	◎			聞くこと	リスニング (内容理解)	キーワード(動作)を聞き取ることができる。	ア(ア), (イ)	88.8	91.9	0.4	
2		(2)	選択	◎			キーワード(曜日)を聞き取ることができる。			60.6		63.0	0.2		
3		(3)	選択	◎			キーワード(場所と動物)を聞き取ることができる。			93.2		95.1	0.2		
4		(4)	選択	◎			キーワード(月名)を聞き取ることができる。			▼ 71.5		82.7	0.6		
5	2	(1)		選択	◎		聞くこと	リスニング (対話文の応答)	対話の内容を聞き取り、適切に応答することができる。(それはホコかとたずねられて)	ア(ア), (ウ)	66.5	67.1	0.4		
6		(2)	選択	◎					対話の内容を聞き取り、適切に応答することができる。(物を手渡してもらって)		△ 89.0	82.3	0.3		
7		(3)	選択	◎					対話の内容を聞き取り、適切に応答することができる。(今していることをたずねられて)		48.7	47.8	0.7		
8	3	(1)		選択	◎		聞くこと	リスニング (内容理解)	英文の要点を聞き取ることができる。(出身地)	ア(ア), (オ)	84.9	84.9	0.2		
9		(2)	選択	◎					英文の要点を聞き取ることができる。(日本語を話す場合)		81.1	82.8	0.5		
10		(3)	選択	◎					英文の要点を聞き取ることができる。(木曜日にすること)		91.0	88.9	0.3		
11	4	(1)	①	選択		◎	読むこと	語形・語法 の知識・理解	語形・語法を理解することができる。(所有代名詞)	ウ(ア)	85.2	84.0	0.4		
12			②	選択		◎			語形・語法を理解することができる。(三単現の疑問文)		70.0	73.5	0.3		
13			③	選択		◎			語形・語法を理解することができる。(一般動詞過去の疑問文の動詞の形)		48.5	52.8	0.4		
14			④	選択		◎			語形・語法を理解することができる。(三単現の否定文の動詞の形)		▼ 61.5	69.7	2.2		
15		(2)	①	短答		◎	書くこと	語彙の知識・理解	単語を正しく書くことができる。(男の子)	エ(ア)	▼ 58.1	74.6	11.6		
16			②	短答		◎			単語を正しく書くことができる。(聞く)		▼ 48.8	55.7	15.1		
17			③	短答		◎			単語を正しく書くことができる。(動物)		▼ 59.0	64.9	13.3		
18			④	短答		◎			単語を正しく書くことができる。(赤い)		▼ 71.9	80.2	11.1		
19	5	(1)		選択	◎		読むこと	さまざまな 英文の読み取り	英文の情報・条件をもとに、適切なものを選ぶことができる。	ウ(エ)	▼ 81.5	86.8	0.4		
20		①	選択	◎		対話の流れとグラフから、適切な数を理解することができる。			71.0		69.0	0.8			
21		②	選択	◎		対話の流れとグラフから、登場人物の適切な発言を判断することができる。			▼ 44.0		53.7	1.8			
22	6	(1)		選択	◎		読むこと	長文の読み取り	長文の内容を把握することができる。	ウ(ウ)	79.4	80.3	0.7		
23		(2)	選択	◎		指示語themの内容を把握することができる。			63.5		66.9	1.0			
24		(3)	記述	○	◎				表	長文の内容に関する質問に英語で答えることができる。	ウ(ウ) エ(ア), (イ)	23.1	26.8	36.2	
25		(4)	選択	◎					長文の概要を把握することができる。	ウ(ウ)	69.3	68.0	1.5		
26	7	(1)		短答	○	◎	書くこと	単語の並べかえによる英作文	英文を正しい語順で書くことができる。(所有格の代名詞＋形容詞＋名詞の文)	エ(ア), (イ)	△ 75.1	53.5	3.3		
27		(2)	短答	○	◎	英文を正しい語順で書くことができる。(一般動詞現在の否定文)			74.3		77.5	4.1			
28		(3)	短答	○	◎	英文を正しい語順で書くことができる。(時期をたずねる過去の疑問文)			▼ 52.5		62.8	4.3			
29		(4)	短答	○	◎	英文を正しい語順で書くことができる。(現在進行形の否定文)			84.7		88.9	4.4			
30	8	(1)		記述	◎		書くこと	場面に 応じて書く英作文	英語でたずねる文を書くことができる。(相手の住んでいる場所をたずねる)	エ(ア), (イ)	▼ 16.0	29.1	21.2		
31		(2)	記述	◎		英語で命令する文を書くことができる。(相手に禁止する)			29.5		32.8	27.4			
32	9			記述	◎		書くこと	3文以上の英作文	自分の好きな人物について、まとめた内容で説明する文を書き表すことができる。	エ(エ)	73.3	72.2	22.1		
33				記述	◎						表	64.5	61.4	22.1	
34				記述	◎						表	エ(エ), (オ)	50.2	48.9	22.1

※「県平均正答率」において、△期待値とのかい離が5ポイント以上上回ったもの。▼は期待値とのかい離が-5ポイント以上下回ったもの。

※「通し番号」及び「出題のねらい」において、網掛けはこれまでの全国学力・学習状況調査において課題となっている問題

3 調査結果の分析と活用

(1) 「学力調査結果」, 「児童生徒質問紙調査結果」の活用

「学力調査結果」の活用では、自校の平均正答率を県平均正答率や期待値と比較し検証することで終えることが多くなります。児童生徒の実態、自身の学習指導の在り方、教科経営等についてじっくり振り返るために、「解答状況一覧」, 「誤答分析」, 「記述問題等解答類型一覧」等も活用しましょう。また、「児童生徒質問紙調査結果」と「学校質問紙調査結果」を比較し、児童生徒と教師との意識の共通点や差異を把握することも指導改善に役立ちます。

① 「解答状況一覧」の活用について

「解答状況一覧」は児童生徒、各設問ごと正誤について示されています。この結果をどのように今後の指導に生かしたら良いのでしょうか？

	A1	A2	A3	A4	A5	A6	A7	A8	・
1	②	③	①	④	3	4	①	<2>	
2	②	③	①	④	2	—	—	<2>	
3	②	③	①	④	①	9	9	<2>	
4	*	③	①	④	3	7	9	—	
5	②	③	9	④	3	9	9	9	
6	1	③	①	④	3	7	①	①	
7	②	③	①	④	①	—	9	9	
8	③	③	①	④	①	9	9	—	
9	②	③	9	④	4	①	①	<2>	
10	②	③	①	④	4	9	9	①	

※選択肢問題

正答を丸囲み数字で、
選択肢外あるいは選択肢
として扱えない解答は
「*」で表記

※短答・記述問題

正答を丸囲み数字で、
準正答を<>囲み数字で表
し、類型外の誤答は「9」
で表記

※ 無回答を「—」で表
記

《A1の設問》→ 数名が間違っている問題

○この子は、どのように考えたのだろうか？

○この子がつまずいているのはどの部分（学習内容）だろうか？

小5、中2の学年のスタートの時点で、理解が不十分な学習内容があるということです。その子がつまずきを解消してあげることが、今後の学習内容の理解に欠かせません。補充的指導の計画を立てる必要があります。

《A5の設問》→ 多くの子が間違っている問題

《A6, A7の設問》→ 多くの子が類型外の誤答だったり無回答だったりした問題

○間違っただけ、無回答だった子たちは、どのように考えたのだろうか？

○この子たちがつまずいたのはどの部分（学習内容）だろうか？

○なぜ、多くの子が間違ったり、無回答だったりしたのだろうか？

多くの子たちが間違っている事実をとらえる必要があります。その設問に関する学習内容の指導において「指導の時間は十分だったのだろうか?」、「指導に使った教材や課題は適切だったのだろうか?」、「そのときの指導方法に問題はなかったのだろうか?」、「教科の指導計画は適切だったのだろうか?」等、様々な要因が考えられると思います。そのときの学級や学校の雰囲気というのも要因として挙げられるかもしれません。補充的指導を行うとともに、明らかになった指導上の課題を改善し今後に生かすことが大切です。

※ 「誤答分析」, 「記述問題等解答類型一覧」等の結果もあわせて検証することで、新たに分かることも多くあります。ぜひ、活用してほしいと思います。

② 「児童生徒質問紙調査結果」の活用について

児童生徒質問紙と学校質問紙で、共通の調査項目があります。教師のとらえ方と子供の感じ方の結果が近い傾向を示している調査項目もあれば差異が大きい調査項目もあります（P31参照）。自分の学校の状況を確認し、同じ傾向を示した調査項目は取組の一層の充実を図り、差異が大きい調査項目は、取組の在り方を検証し、改善することが大切です。

(2) 国語の調査結果の分析と活用

〈小学校5年 国語〉

4 ア 【ノートの一部】を読み、資料から読み取り分かったことを的確に書くことができるかを見る問題

県平均正答率 22.5% 期待値 72.4% かい離 -49.9

【児童の考えとその理由（予想も含む）】

- 空欄「ア」を含む文の構成について理解できていない。
 - ・～が，～が，という主部を並立させた述べ方が理解できず，それぞれを述部につないで読むことができない。
 - ・主格を示す格助詞の「が」を，接続助詞の「が」と混同して捉えた。
- 直接的に問われていない下の文まで読み込んでいないため，上下の文の関係に気付かず，「文末が対になるように書く」という見通しが持てないまま記述している。
- 資料の読み取りが不十分なまま，文章だけを読んで空欄「ア」に当てはまる内容を考えている。
- 人数が「一番多い」項目について取り上げられていることに気付かず，「100人をこえた」「120人と147人になった」というように具体的な数値で記述している。
- 大問4として「ア」と「イ」の内容が続けて問われているので，「イ」の条件に惑わされ，題意が正しくつかめない。

【指導のポイント】

- 資料に表された情報を正しく読み取るために，分かる事実を一つ一つ読み取る活動や，必要な情報を的確に読み取る活動を通して，図や表，グラフなどの資料を読み取る際の着眼点を確認することが大切である。

グラフを読む際に留意する点は，次のようなものである。

〈グラフの読み方〉

- ・ 表題，調査時期，調査対象などを確認する。
- ・ 凡例（グラフの中の記号の意味を示したもの）を確認する。
- ・ 数量の大小や差異，全体的な特徴を捉える。
- ・ 基準点（平均や数値の逆転など）を設定し，変化の特徴を捉える。
- ・ 目的に応じて，読み取った内容を比較したり統合したりして考察する。

これらに沿って指導していく中で，資料の全体的な傾向・特徴を捉える活動や，共通点・相違点に着目して比較したり統合したりする活動を大事にする。

- 読み取った情報を取り出し，的確に記述するために，読み取った内容に応じて表現するための言葉を身に付けさせることが大切である。そのためには，児童相互の学び合いを通して様々な表現に触れさせるとともに，表現するための言葉を具体的に指導する必要がある。次は，その一例である。

〈読み取った情報を記述する際の表現例〉

- ・ …するにつれて…なる。 ・ しだいに…(推移)なる。
- ・ ～は…だが，～は…だ。 ・ 一方が…のとき(仮定・条件)，もう一方は…だ。
- ・ ～より～の方が(比較)…だ。 ・ ～は□が，～は△が，…(特徴的な内容)…だ。
- ・ ～も～も…(共通する内容)…だ。

<中学校2年 国語>

- ② (1) 【話し合いの一部】を読み、話し合いの方向をとらえて、司会の発言がどのような役割を果たしているかを捉えることができるかをみる問題

県平均正答率 63.1%

期待値 90.5%

かい離 - 27.4

【生徒の考えとその理由（予想を含む）】

- ① 1と解答しているもの (14.0%)
- ・「様々な意見」とあるところを「一人の意見」と読み違えたため。
 - ・「意見を一つにまとめる」のみに着目し、それを発言内容の要約と混同したため。
- ② 2と解答しているもの (12.0%)
- ・「補足する役割」を、司会が発言の内容を要約して確認したと混同したため。
 - ・司会が「楽しめるので」と発言したことを、理由を補足した、と捉えたため。
- ③ 3と解答しているもの (9.8%)
- ・「話し合いの目的」には着目せず、話し合いの展開を捉えきれないまま語尾の「～です」だけにとらわれて、発言の内容を確認した言葉と考えたため。

【指導のポイント】

- 話し合いでは、発言者の考えやその理由が参観者に明確に伝わるようにすることが重要である。そのために、司会は発言の意図を問い返したり、必要な発言を促したりするなど、状況に応じて役割を果たすように指導することが大切である。
 - ビデオカメラやタブレット型PCなどを効果的に活用して話し合いの過程を動画で記録するなど、話し合いを客観的に振り返る場を設け、進行の仕方や参加者への声の掛け方等によって司会の役割を考えさせることも大切である。
- なお、話し合いにおける司会の役割には、以下のようなものが考えられる。

- ・ 話し合いの目的を明確にすること
- ・ 参加者それぞれに発言の機会を与えること
- ・ 必要に応じて発言の内容を確認したり不足している情報を聞き出したりすること
- ・ 話し手や聞き手の様子を見て、次にどのように話し合いを進めるか判断すること
- ・ 話し合いの内容を整理したり結論を確認したりすること など

- 国語科以外の各教科等における話し合い活動でも「何について話し合うのか」だけではなく、「何のために、どのように話し合うのか」など、目的や見通しを確認しながら、司会の役割を意識させることが大切である。また、司会を固定化することなく輪番的に繰り返し経験させ、その能力を確かなものにしていく意図をもって指導に当たるよう留意したい。

(3) 算数・数学の調査結果の分析と活用

<小学校5年 算数>

12 作図に用いられている図形の約束や性質を理解しているかどうかをみる問題

県平均正答率 46.8% 期待値 52.0% かい離 -5.2

【児童の考えとその理由（予想を含む）】

- ① 2 「ひし形は、向かい合っている辺が平行である」と解答しているもの（18.9%）
 - ② 3 「ひし形は、向かい合っている角の大きさが等しい」と解答しているもの（19.0%）
 - ③ 4 「ひし形は、向かい合っている辺の長さが等しい」と解答しているもの（14.4%）
- ・作図後の「完成図」のひし形をみて、知っている性質を解答している。
 - ・ひし形になるための条件を理解していない。実際にひし形をかくことを体験していない。
 - ・ひし形と平行四辺形の共通点と違いを明確に理解していない。
 - ・コンパスの用途が同じ長さを写しとることを理解していない。
 - ・作図の手順とひし形の性質を関連させられない。

【指導のポイント】

- 図形の約束や性質の理解を確実にする。
 - ・図形をかく、図形をつくるといった活動を通して、様々な図形の約束や性質を正しく理解できるようにする。
- 作図に用いる道具の系統的な指導を徹底する。
 - ・3年C(1)での算数的活動「エ 二等辺三角形や正三角形を定規とコンパスを用いて作図する活動」での指導の充実を図る。
 - ・作図に用いるコンパスは、等しい長さを比べる、等しい長さを見付ける、等しい長さを測り取って移す、等しい長さの点をつなぐ（円を描く）など、コンパスの有用性に気付かせる指導を大切にする。
 - ・コンパスを用いて円をかくことは、実は「中心から同じ距離にあるたくさんの点を作図している」という見方に気付かせる。
- 単に作図の手順を形式的に指導するだけでなく、その作図が図形のどのような約束や性質を使っているのかを考え、それを基に作図できるようにする。
 - ・ひし形の性質をまとめた後に、その一つ一つの性質を用いて、実際にひし形を作図する活動を行う。試行錯誤しながら作図を試みる活動を通して、「ひし形は、辺の長さがみんな等しい」という性質と対応させ、コンパスを用いて作図する方法が便利であることに気付かせる。
 - ・例えば、選択肢②「向かい合っている辺が平行」という条件を基に作図すると「平行四辺形」ができるなど、与えられた条件からどのような図形がかけられるかイメージできるようにする。
 - ・二つの弧が交わる点を見付けるという作業が、「二辺の長さが等しい」位置を探すために行っている作図であることを理解できるようにする。
- 作図に用いられている図形の約束や性質を説明させる活動の充実を図る。
 - ・完成した図が、作図で用いた性質を使った図になっているかを確認させるとともに、作図の手順を理由付けて説明させる活動を取り入れる。

<中学校2年 数学>

9 (1) 比例という条件のもと、一定の割合で増減している表から立式する問題

県平均正答率 49.6% 期待値 56.3% かい離 -6.7

【生徒の考えとその理由（予想を含む）】

① 2 $y = \frac{1}{2}x$ と解答しているもの (8.2%)

・表より、「 x の値が2ずつ増加しているのに対し、 y の値は-1ずつ増加している」と読み取るべきところを、「 y の値は1ずつ増加している」と誤って捉えたため、比例定数を $\frac{1}{2}$ と考えている。

・表中の x の値と y の値を、比例の式 $y = ax$ に代入して、比例定数 a の値を求めようとしたところ、計算の途中で負の符号の処理を誤った。

② 3 $y = -2x$ と解答しているもの (30.7%)

・表中の x の値と y の値の関係に着目し、 $(xの値) = (yの値) \times (-2)$ となっていることから、短絡的に比例定数を-2と考えている。

・ $(xの値) \div (yの値) = -2$ の計算結果から、比例定数を-2と考えている。

③ 4 $y = 2x$ と解答しているもの (10.1%)

・表より、「 x の値が2ずつ増加しているのに対し、 y の値は1ずつ増加している」と誤って捉え、 x の増加量のみに着目して、比例定数を2と考えている。

【指導のポイント】

○ 表と式を関連付けて、比例の意味の理解を深めることができるようにする。

・比例について、「 x の値を2倍、3倍、…にすると、それに対応する y の値も2倍、3倍、…になる」こと、また、「 y の値を対応する x の値でわった商が一定になる」こと、「比例の式の形が、 $y = ax$ である」ことなどを、表と式を関連付けて確かめるようにする。

・「比例では、 x の値が増えれば、いつも y の値が増える」といった誤りが見られるので、比例定数が負の数の場合には、「 x の値が増えれば、 y の値は減る」ことを表で調べ、 $y = ax$ の a の値との関係を理解できるようにする。

○ 変数と比例定数の意味について、式、表、グラフの特徴を相互に関連付けて理解できるようにする。

・ $y = ax$ の式に x 、 y の値を代入して比例定数を求めるだけでなく、表やグラフに表し、比例定数について見直す活動を取り入れ、比例定数の意味の理解を深められるようにする。

・様々な x 、 y の値の組に対して比例定数 a が一意に定まることや、比例定数を求めれば比例の式が決まることを確認する場面を設定する。

・求めた比例の式が本当に正しいのか、そうでないのかを、表中の x の値と y の値を代入して確かめる活動を大切にす。自分自身で正答かどうかを確かめることよさを実感させることで、確かめる習慣が身に付くよう指導する。

(4) 英語の調査結果の分析と活用

<中学校> 英語

4 (2) ① 日本語の意味を表す英文になるように、() に適切な英語を入れる問題

県平均正答率 58.1% 期待値 74.6% かい離-16.5

【生徒の考えとその理由（予想を含む）】

- ① 準正答の解答であるもの (6.3%)
 - ・空欄に入る語が boy と分かり書いたが、正しく綴ることができなかった。
- ② 類型外誤答の解答であるもの (27.2%)
 - ・空欄に入る語が boy と分からず、他に思いついた単語を書いた。
- ③ 無解答の解答であるもの (11.6%)
 - ・空欄に入る語が boy と分かったが、綴りが分からず何も書かなかった。
 - ・空欄に入る語が思いつかず、何も書かなかった。

【指導のポイント】

- 正しく綴ることができる単語を増やし、自分の語彙として確実に使えるようにする。
 - ・習った語を学習したものとは異なる文脈の中でも関連付けて使えるようにしたり、日本語を介さなくても答えられるようにしたりする。知っていることを解答するだけでなく、コミュニケーション能力を図る視点を大事に指導する。
 - ・いろいろな英文に触れる機会を与える。
 - ・自由に書くことを楽しむ機会を与える。
- あいまいな知識を確実な定着へとつなぐようにする。
 - ・文の中で単語を覚えるようにする。そのことばがどのような場面で使われ、どのような働きがあるのかといったことについての理解が伴うことが、定着につながる。そのため、教科書の基本文は、確実に「言える」「書ける」という段階を踏み、定着させる（暗唱・暗写）。
 - ・単語の発音練習の場面では、単語カード（フラッシュカード）を活用しながら十分な練習を行い生徒一人一人が正しく読めるようにする。この段階で音読を十分に行い、生徒が単語の綴りをまとまりとして認識できるようにすることが大切である。それが、単語の綴りを覚えるために「書く」練習を行う大事な下地となる。
- 「読むこと」の指導と関連を図りながら段階を踏んだ指導を系統立て、「わかった」「できた」という実感からやる気を高めるようにする。
 - ・英語の単語の意味を確実におさえ、繰り返し書いて覚える練習をさせる。ノート指導などから日頃の取り組みの様子を丁寧に見取る。回数をこなすことを学習の最終目標としないよう、確実に覚えたかどうかを確認する場面（例えば単語の小テストなど）を授業に意図的・計画的に位置付ける。
 - ・選択肢から適する語を選ばせたり、単語のはじめの文字をヒントとして与えて書かせたりするなどどの生徒も「わかった」「できた」という手応えをつかめるよう工夫する。

4 質問紙調査結果の概況

※回答欄の数値は、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」の割合を合計した値（％）

※経年比較欄の数値はH27とH26との回答の差

※質問事項の□囲みの数字は、グラフを提示

(1) 児童生徒質問紙調査の結果

① 「学力向上に向けた5つの提言」と関連する事項

- 先生から声を掛けられたり、励まされたりしているとする割合が小5，中2ともに7割を超え、先生が話を聞いてくれる，良いところを認めてくれるとしている割合は，8割を超えている。経年比較もプラスであり，肯定的に受け止めている児童生徒が多くなっている。
- 授業のはじめに目標を示されていると思っている割合は，小5，中2とも高い。授業の最後に振り返る活動をよく行っていると思っている割合は，小5，中2とも低く，課題はあるが，経年比較では改善傾向が見られる。
- 自分の考えをノートに書くようにしている割合は，小5で7割を超えている。中2では5割程度と低く課題があるが，経年比較から改善傾向が見られる。
- 家で授業の予習，復習をしている割合は小5，中2ともに5割前後で低く，課題があるが，経年比較では改善傾向が見られる。
- 平日，家庭などで小5で1時間以上勉強している割合は，5割を超えているが，経年比較ではマイナスでありやや課題が見られる。中2で2時間以上勉強している割合は，2割程度と低く課題がある。

質問事項	年度	小学校5年生		中学校2年生	
		回答	経年比較	回答	経年比較
□1 先生から声を掛けられたり，励まされたりしますか	H27	73.7	4.0	70.7	5.2
	H26	69.7		65.5	
□2 先生はあなたの話を聞いてくれますか	H27	91.7	4.9	85.4	5.9
	H26	86.8		79.5	
□3 先生は，あなたの良いところを認めてくれていると思いますか	H27	84.8	3.8	80.2	4.4
	H26	81.0		75.8	
□4 授業のはじめに先生から（めあて・ねらい）が示されていると思いますか	H27	82.1	1.6	78.9	5.4
	H26	80.5		73.5	
□5 授業のおわりにその時間の学習内容を振り返る活動が行われていると思いますか	H27	66.7	0.6	57.0	4.8
	H26	66.1		52.2	
□6 授業で，自分の考えをノートに書くようにしていますか	H27	71.9	-2.0	55.5	4.9
	H26	73.9		50.6	
7 家で学校の授業の予習をしていますか	H27	48.3	4.1	40.9	4.1
	H26	44.2		36.8	
8 家で学校の授業の復習をしていますか	H27	57.6	-0.3	58.6	8.0
	H26	57.9		50.6	
9 学校の授業時間以外に，普段（月～金曜日），1日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか（塾や家庭教師含む，小学校：1時間以上，中学校：2時間以上）	H27	52.7	-4.1	24.2	2.1
	H26	56.8		22.1	
10 土曜日や日曜日など学校が休みの日に，1日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか（塾や家庭教師含む，小学校：2時間以上，中学校：3時間以上）	H27	21.9	0.1	12.8	-0.3
	H26	21.8		13.1	

◇ 小5における「学力向上に向けた5つの提言」と関連する事項と教科の平均正答率のクロス集計

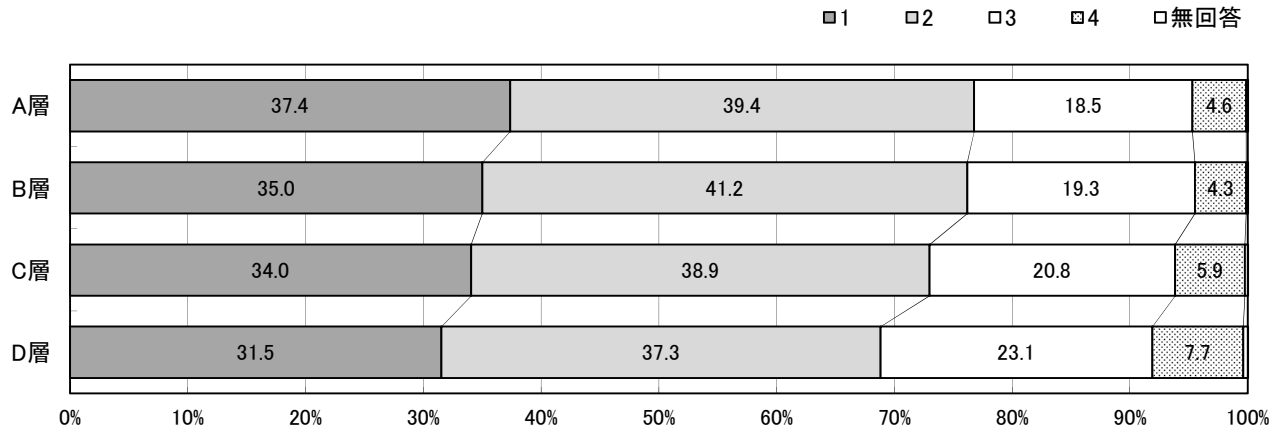
※ 一部の項目を掲載

- ○ 「先生から声を掛けられたり、励まされたりしている」と回答している児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。

1 「先生から声を掛けられたり、励まされたりしていますか」と小5における教科の平均正答率とのクロス集計結果（中2においてもほぼ同様な傾向が見られる）

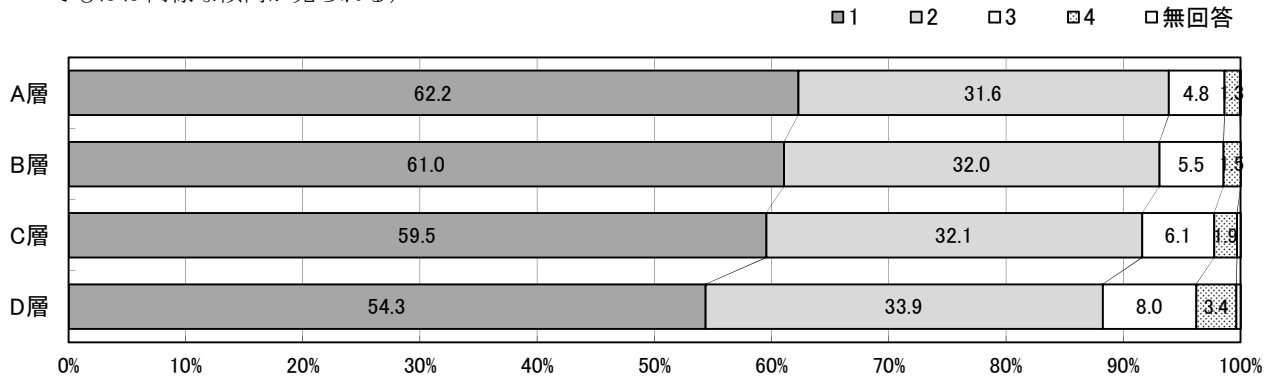
《選択肢》 1：当てはまる 2：どちらかと言えば当てはまる 3：どちらかと言えば当てはまらない 4：当てはまらない

※ 正答率の高い順に、その人数を25%刻みで4つの層に分けています。上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層としています。



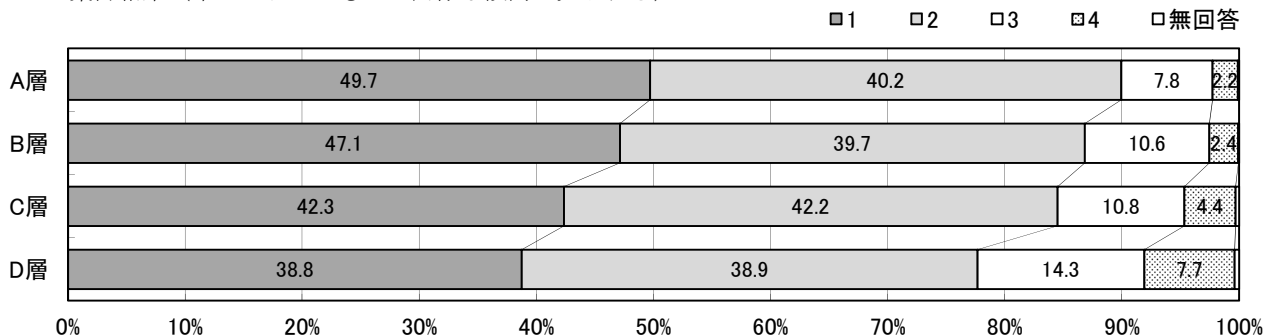
- 「先生が話を聞いてくれる」と回答している児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。

2 「先生はあなたの話を聞いてくれますか」と小5における教科の平均正答率とのクロス集計結果（中2においてもほぼ同様な傾向が見られる）



- 「先生が、良いところを認めてくれている」と回答している児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。

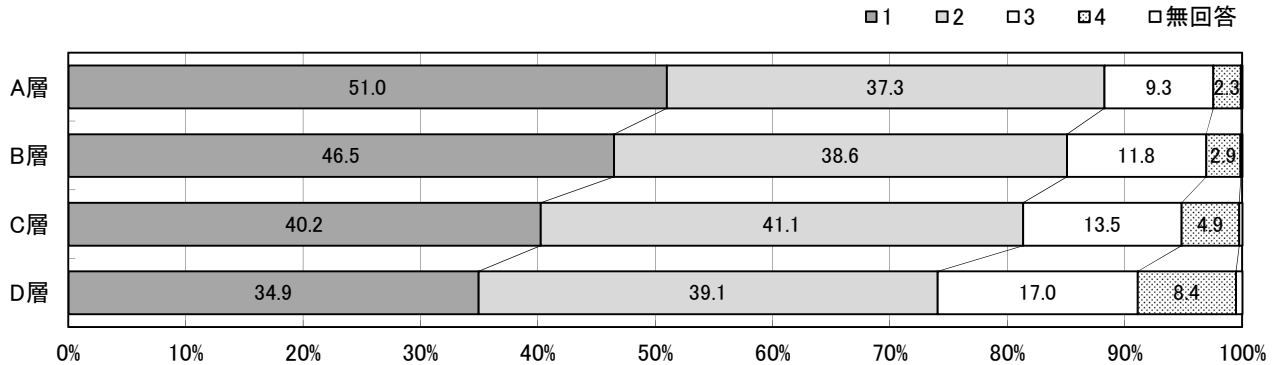
3 「先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか」と小5における教科の平均正答率とのクロス集計結果（中2においてもほぼ同様な傾向が見られる）



○ 「授業のはじめに先生から目標（めあて・ねらい）が示されていた」と回答している児童の方が、正答率が高い傾向が見られる。

4 「授業のはじめに先生から目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか」と小5における教科の平均正答率とのクロス集計結果（中2においては、顕著な差は見られない）

《選択肢》 1：当てはまる 2：どちらかと言えば当てはまる 3：どちらかと言えば当てはまらない
4：当てはまらない
※ 正答率の高い順に、その人数を25%刻みで4つの層に分けています。
上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層としています。

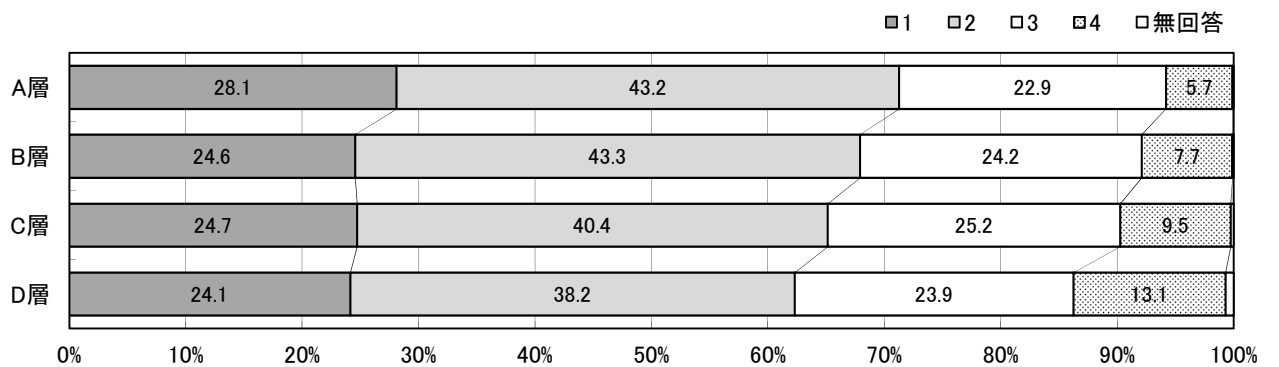


《中2におけるクロス集計結果》

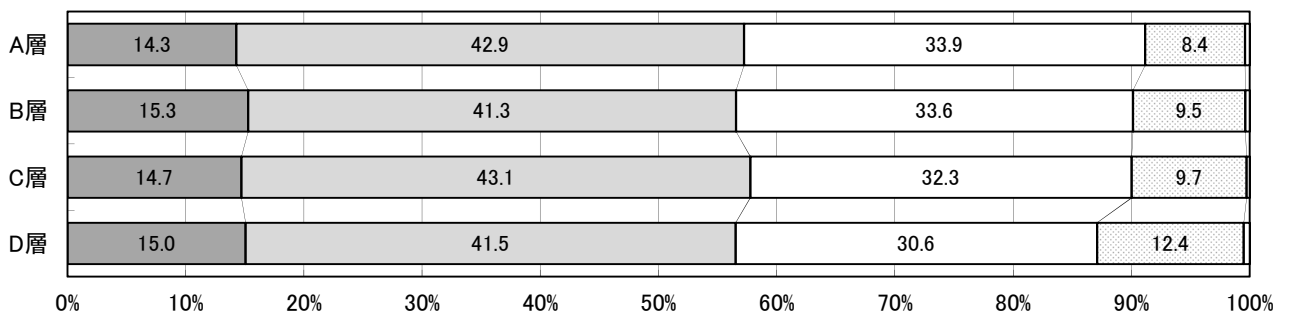


○ 「授業の終わりにその時間の学習内容を振り返る活動が行われている」と回答している児童の方が、正答率が高い傾向が見られる。

5 「授業の終わりにその時間の学習内容を振り返る活動が行われていると思いますか」と小5における教科の平均正答率とのクロス集計結果（中2においては、顕著な差は見られない）



《中2におけるクロス集計結果》

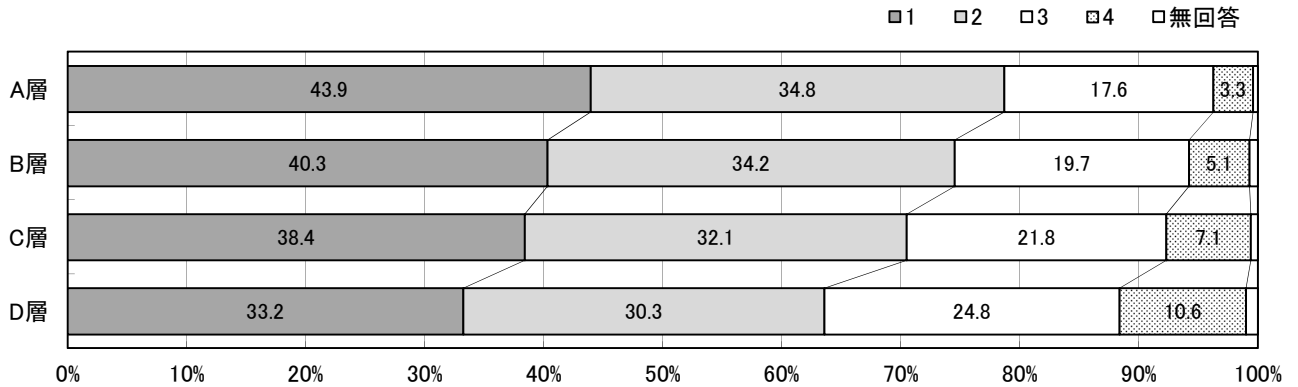


- 「授業で、自分の考えをノートに書くようにしている」と回答している児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。

6 「授業で、自分の考えをノートに書くようにしていますか」と小5における教科の平均正答率とのクロス集計結果（中2においてもほぼ同様な傾向が見られる）

《選択肢》 1：当てはまる 2：どちらかと言えば当てはまる 3：どちらかと言えば当てはまらない 4：当てはまらない

※ 正答率の高い順に、その人数を25%刻みで4つの層に分けています。上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層としています。



② 震災の影響と関連する事項

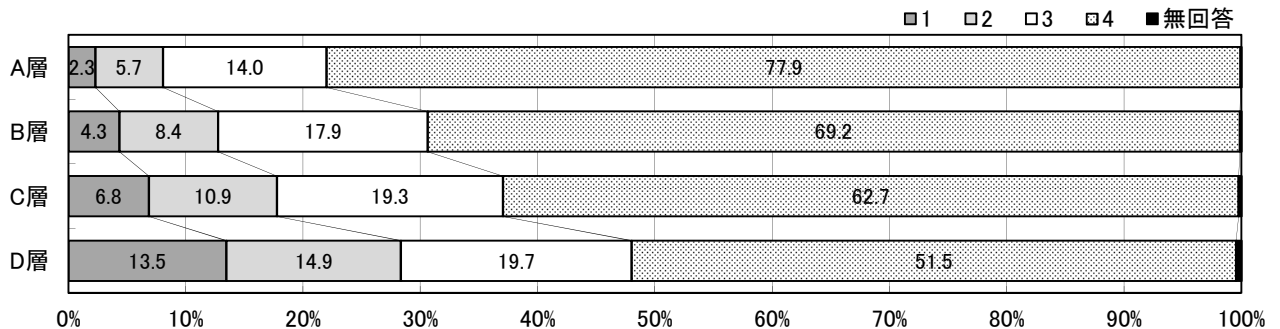
- 経年比較から、中2については、少しずつ震災の影響を乗り越え始めているように思われる。一方、小5については、授業に集中できないときがある、落ち着かなくなることがあると回答した割合がやや高く、経年比較から昨年度より増えていることが分かる。

質問事項	年度	小学校5年生		中学校2年生	
		回答	経年比較	回答	経年比較
11 (小) 震災があったために、家庭学習がやりにくいですか (中) 震災があったために、家庭学習がやりにくくなりましたか	H27	16.7	-1.9	12.7	-0.3
	H26	18.6		13.0	
12 突然震災を思い出し、授業に集中できないときがありますか	H27	16.2	2.6	5.6	0.2
	H26	13.6		5.4	
13 突然震災を思い出し、気持ちが落ち着かなくなることがありますか	H27	22.0	4.4	9.3	-2.6
	H26	17.6		11.9	

◇ 小5における震災の影響と教科の平均正答率のクロス集計

- 「小：震災があったために、家庭学習がやりにくい（中：やりにくくなった）」と回答している児童生徒の方が、正答率が低い傾向が見られる。

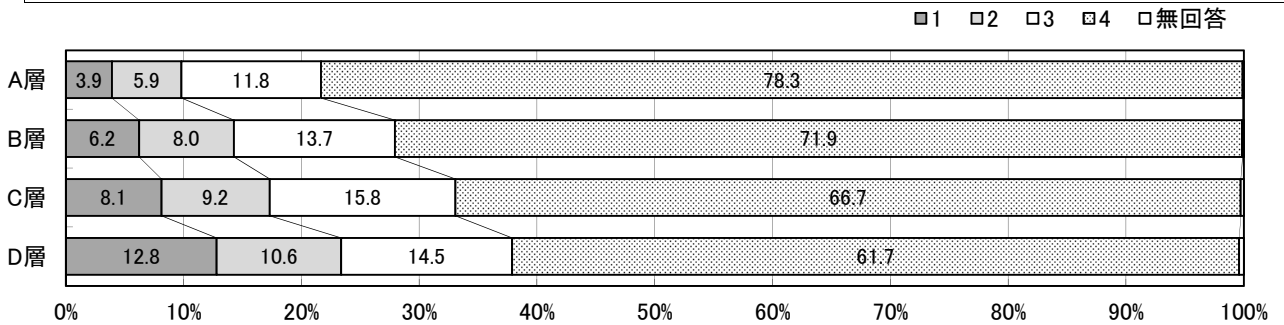
11 「震災があったために、家庭学習がやりにくいですか」と小5における教科の平均正答率とのクロス集計結果（中2においてもほぼ同様な傾向が見られる）



- 「突然震災を思い出し、授業に集中できないときがある」と回答している児童生徒の方が、正答率が低い傾向が見られる。

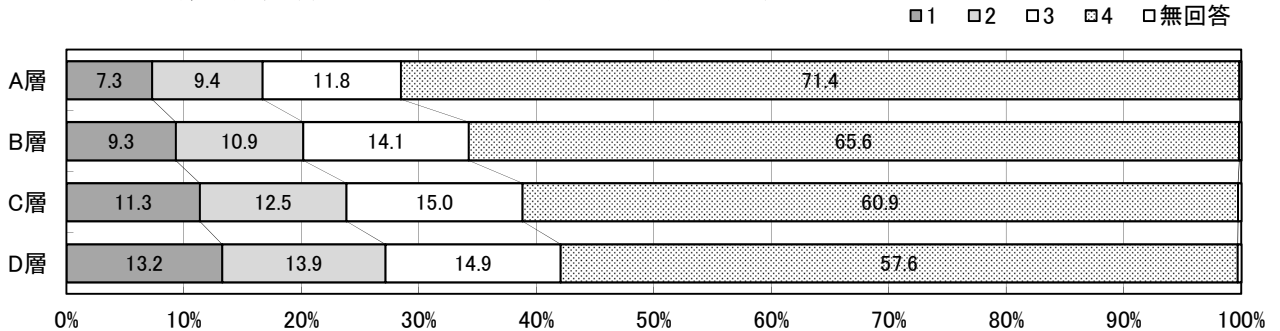
12 「突然震災を思い出し、授業に集中できないときがありますか」と小5における教科の平均正答率とのクロス集計結果（中2においてもほぼ同様な傾向が見られる）

《選択肢》 1：当てはまる 2：どちらかと言えば当てはまる 3：どちらかと言えば当てはまらない 4：当てはまらない
 ※ 正答率の高い順に、その人数を25%刻みで4つの層に分けています。上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層としています。



- 「突然震災を思い出し、気持ちが落ち着かなくなることがある」と回答している児童生徒の方が、正答率が低い傾向が見られる。

13 「突然震災を思い出し、気持ちが落ち着かなくなることがありますか」と小5における教科の平均正答率とのクロス集計結果（中2においてもほぼ同様な傾向が見られる）



③ 学習の理解度と関連する事項

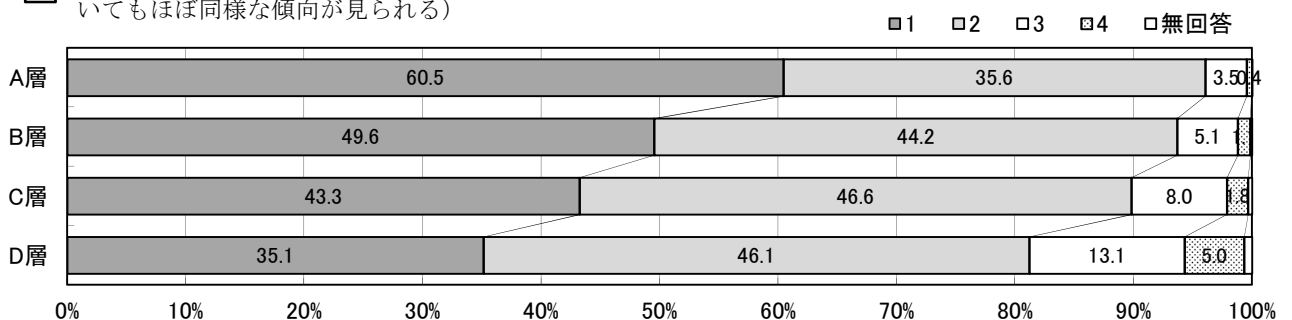
- 小5では、国語、算数の授業の内容が分かるとしている割合は9割前後と高くなっている。中2でも、国語、数学、英語とも7割を超え、高くなっている。

質問事項	年度	小学校5年生		中学校2年生	
		回答	経年比較	回答	経年比較
14 国語の授業の内容はよく分かりますか	H27	90.2	2.5	85.5	2.6
	H26	87.7		82.9	
15 算数・数学の授業の内容はよく分かりますか	H27	89.8	0.8	72.5	0.7
	H26	89.0		71.8	
16 英語の授業の内容はよく分かりますか	H27			72.0	-0.1
	H26			72.1	

◇ 小5における学習の理解度と教科の平均正答率のクロス集計

- 「授業がよく分かる」と回答している児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。

14 「国語の授業の内容はよく分かりますか」と小5における教科の平均正答率とのクロス集計結果（中2においてもほぼ同様な傾向が見られる）



④ 基本的な生活習慣と関連する事項

- 朝食を毎日食べることなど、学力向上を支える基本的な生活習慣については、小5、中2ともに肯定的な回答をした割合が高く、概ね身に付いている。
- 小5では、テレビやビデオを見る時間、テレビゲームの時間が減っており、改善傾向が見られる。中2では、その質問事項に加え、携帯電話やスマートフォンの使用時間も減っており、全体として改善傾向が見られる。

質問事項	年度	小学校5年生		中学校2年生	
		回答	経年比較	回答	経年比較
17 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	H27	76.7	-2.3	78.6	1.4
	H26	79.0		77.2	
18 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	H27	89.3	0.0	92.2	-0.1
	H26	89.3		92.3	
19 朝食を毎日食べていますか	H27	96.3	-0.2	94.4	-0.1
	H26	96.5		94.5	
20 平日に、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか（テレビゲームを除く）→3時間以上と回答した割合	H27	26.1	-1.1	25.9	0.5
	H26	27.2		25.4	
21 平日に、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む）をしますか→3時間以上と回答した割合	H27	10.8	-1.5	16.3	-1.7
	H26	12.3		18.0	
22 平日に、携帯電話やスマートフォンを勉強以外で使う時間はどのくらいですか →3時間以上と回答した割合	H27	3.3	0.0	13.6	-2.0
	H26	3.3		15.6	
23 平日に、携帯電話やスマートフォンでLINEなどの無料通信アプリをどのくらい使っていますか →1時間以上と回答した割合	H27	5.7	0.3	26.7	-4.4
	H26	5.4		31.1	
24 携帯電話やスマートフォンを所持している割合	H27	47.8	-6.0	66.5	-3.9
	H26	53.8		70.4	

※20から24については、数値が高いほど、また、比較の値が大きいほど改善の必要性が高い。

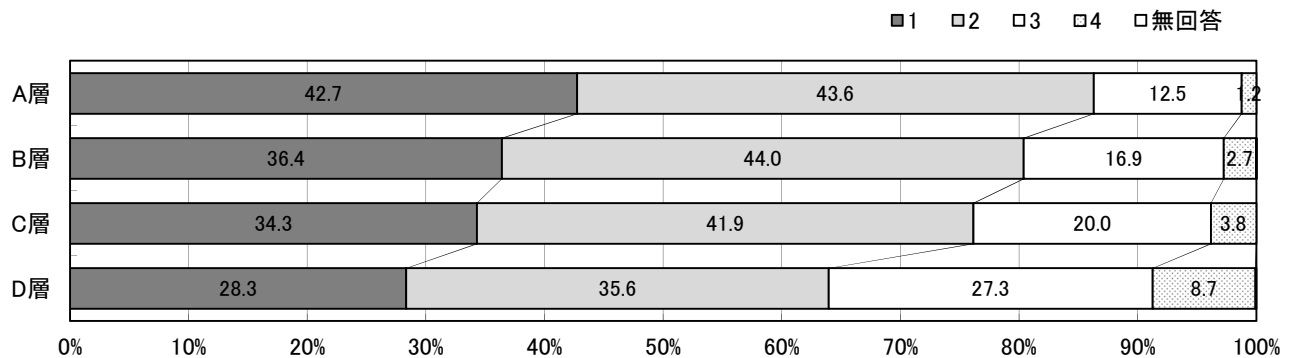
◇ 小5における基本的な生活習慣と教科の平均正答率のクロス集計

- 「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」などと回答している児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。

17 「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」と小5における教科の平均正答率とのクロス集計結果（中2においてもほぼ同様な傾向が見られる）

《選択肢》 1：当てはまる 2：どちらかと言えば当てはまる 3：どちらかと言えば当てはまらない 4：当てはまらない

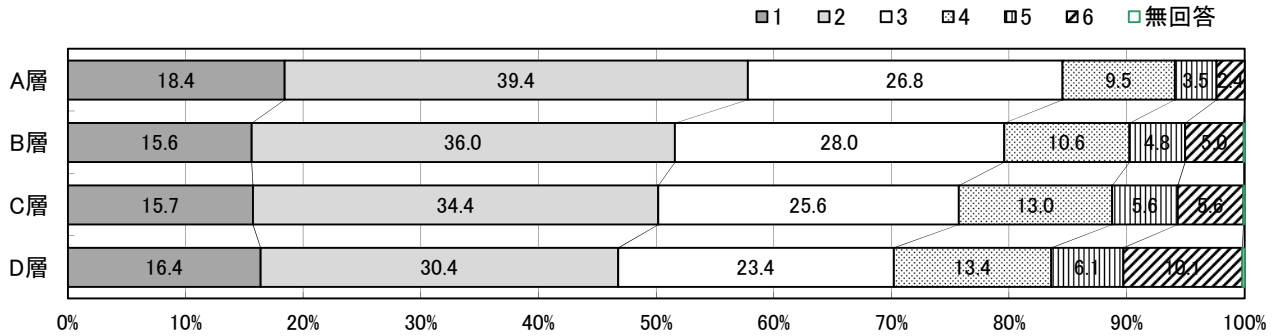
※ 正答率の高い順に、その人数を25%刻みで4つの層に分けています。上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層としています。



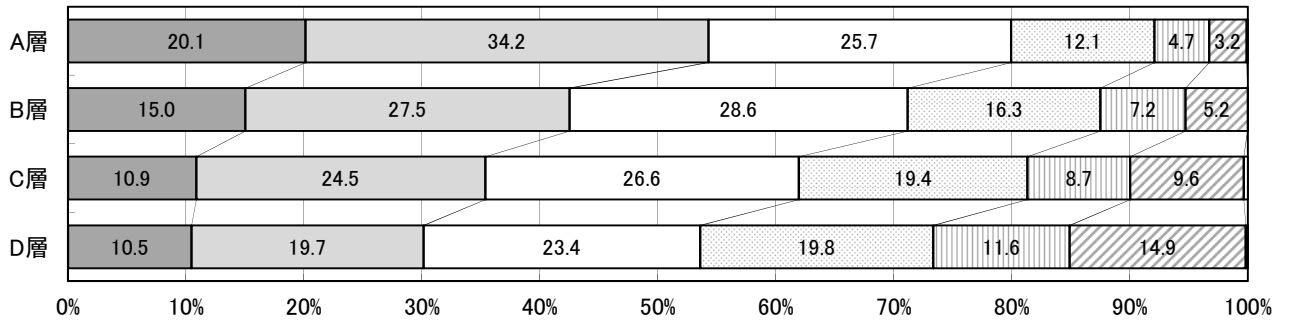
○ 「平日に、テレビゲーム等をする時間が短い」児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。

21 「平日に、1日当たりどれぐらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む）をしますか」と小5における教科の平均正答率とのクロス集計結果（中2においては、より顕著である）

《選択肢》 1：全くしない 2：1時間未満 3：1時間以上2時間未満
 4：2時間以上3時間未満 5：3時間以上4時間未満 6：4時間以上
 ※ 正答率の高い順に、その人数を25%刻みで4つの層に分けています。上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層としています。



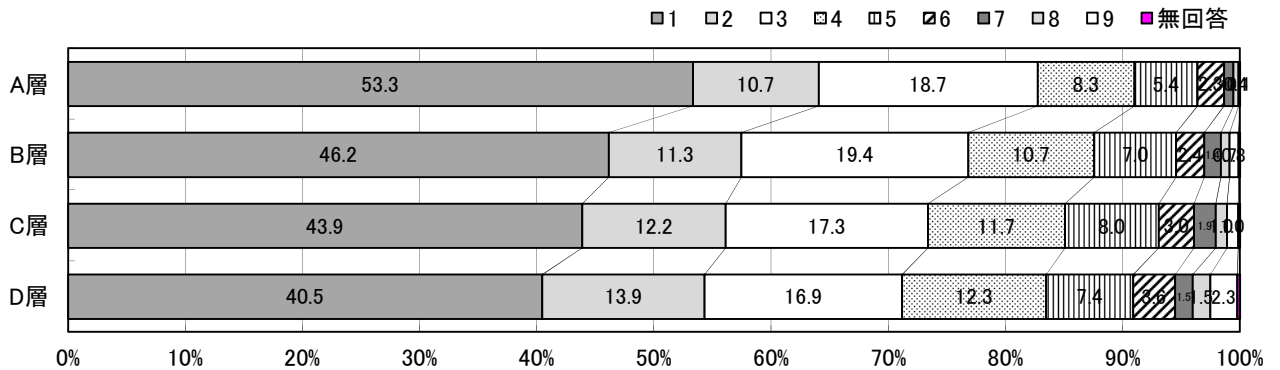
《中2におけるクロス集計結果》



○ 「平日に、携帯電話やスマートフォンを使う時間が短い」児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。

22 「平日に、携帯電話やスマートフォンを勉強以外で使う時間はどれぐらいですか」と小5における教科の平均正答率とのクロス集計結果（中2においてもほぼ同様な傾向が見られる）

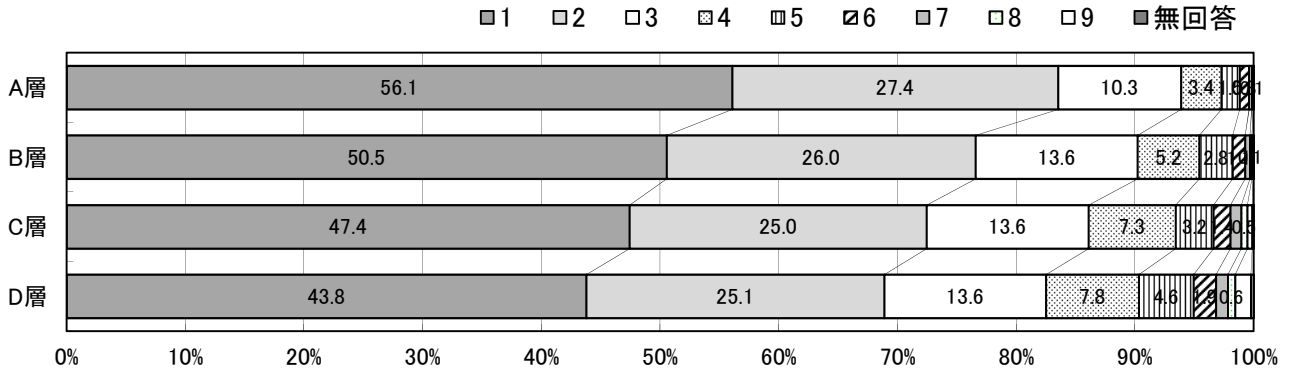
《選択肢》 1：携帯電話等やスマートフォンを持っていない 2：全く使わない 3：30分未満
 4：30分以上1時間未満 5：1時間以上2時間未満 6：2時間以上3時間未満
 7：3時間以上4時間未満 8：4時間以上5時間未満 9：5時間以上
 ※ 正答率の高い順に、その人数を25%刻みで4つの層に分けています。上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層としています。



○ 「平日に、LINEなどの無料通信アプリを使う時間が短い」児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。

23 「平日に、携帯電話やスマートフォンでLINEなどの無料通信アプリをどのくらい使っていますか」と小5における教科の平均正答率とのクロス集計結果（中2においてもほぼ同様な傾向が見られる）

《選択肢》 1：携帯電話等やスマートフォンを持っていない 2：全く使わない 3：30分未満
 4：30分以上1時間未満 5：1時間以上2時間未満 6：2時間以上3時間未満
 7：3時間以上4時間未満 8：4時間以上5時間未満 9：5時間以上
 ※ 正答率の高い順に、その人数を25%刻みで4つの層に分けています。上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層としています。



⑤ 自尊意識・規範意識と関連する事項

- 自分には、良いところがあると思っている割合は、小学校で7割以上、中2は6割以上である。
- 将来の夢や目標を持っている割合は、小学校で9割程度、中学校で7割以上である。
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思っている割合は、小5、中2ともに9割以上である。
- 小5、中2のそれぞれ1項目以外は、経年比較がプラスとなっており、自尊意識・規範意識の面で良い傾向が見られている。

質問事項	年度	小学校5年生		中学校2年生	
		回答	経年比較	回答	経年比較
25 自分には、よいところがあると思いますか	H27	75.4	2.7	65.0	2.0
	H26	72.7		63.0	
26 ものごとを最後までやりとげてうれしかったことがありますか	H27	93.6	-0.1	93.6	0.0
	H26	93.7		93.6	
27 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか	H27	82.0	2.1	69.7	-1.1
	H26	79.9		70.8	
28 人の役に立つ人間になりたいと思いますか	H27	93.7	1.3	93.5	1.0
	H26	92.4		92.5	
29 将来の夢や目標を持っていますか	H27	92.6	2.4	75.2	2.6
	H26	90.2		72.6	
30 学校のきまり（規則）を守っていますか	H27	92.2	3.0	94.1	1.9
	H26	89.2		92.2	
31 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	H27	96.3	0.6	95.0	1.7
	H26	95.7		93.3	

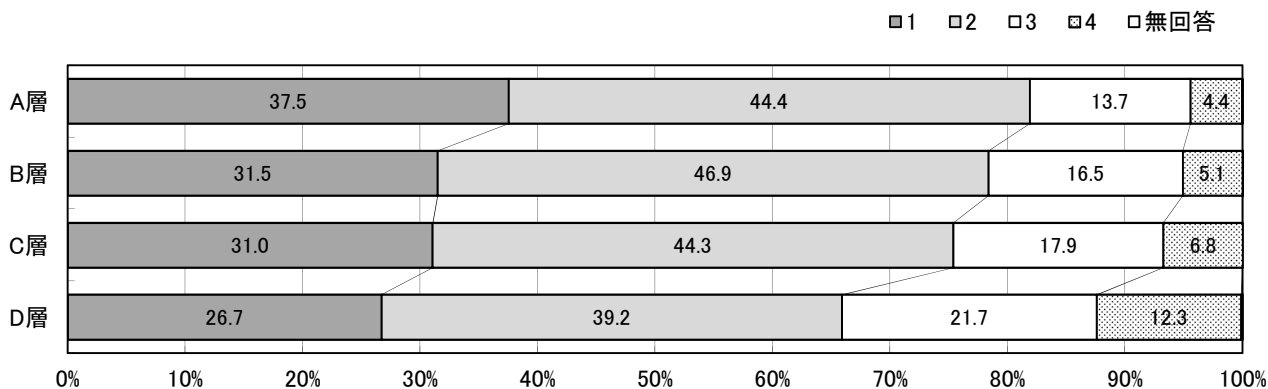
◇ 小5における自尊意識・規範意識と教科の平均正答率のクロス集計

- 「自分には、よいところがあると思う」と回答している児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。

25 「自分には、良いところがあると思いますか」と小5における教科の平均正答率とのクロス集計結果（中2においてもほぼ同様な傾向が見られる）

《選択肢》 1：当てはまる 2：どちらかと言えば当てはまる 3：どちらかと言えば当てはまらない 4：当てはまらない

※ 正答率の高い順に、その人数を25%刻みで4つの層に分けています。上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層としています。

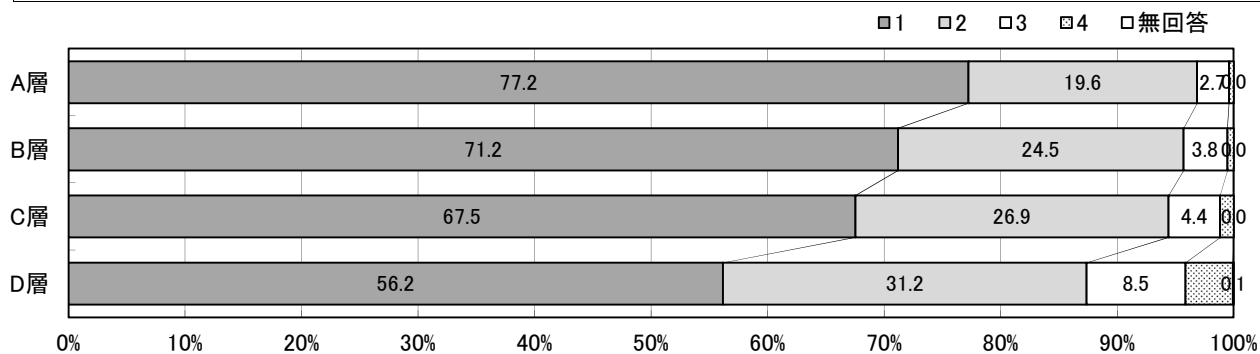


- 「ものごとを最後までやりとげてうれしかったことがある」と回答している児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。

26 「ものごとを最後までやりとげてうれしかったことがありますか」と小5における教科の平均正答率とのクロス集計結果（中2においてもほぼ同様な傾向が見られる）

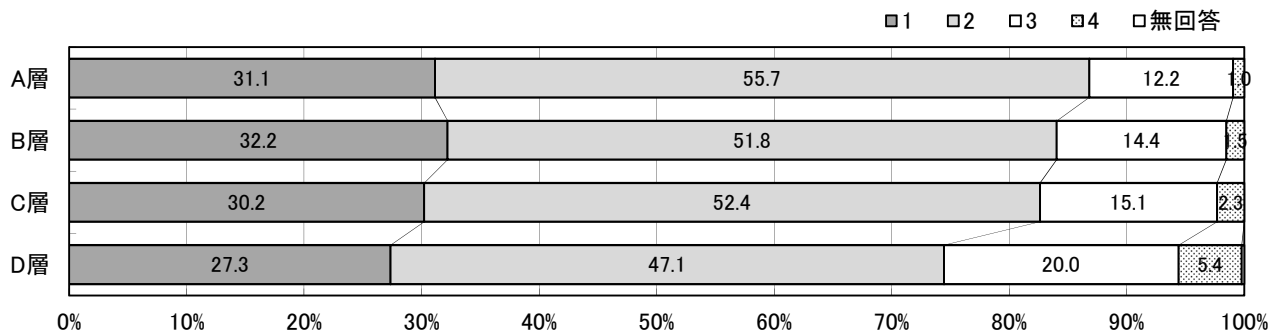
《選択肢》 1：当てはまる 2：どちらかと言えば当てはまる 3：どちらかと言えば当てはまらない 4：当てはまらない

※ 正答率の高い順に、その人数を25%刻みで4つの層に分けています。上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層としています。



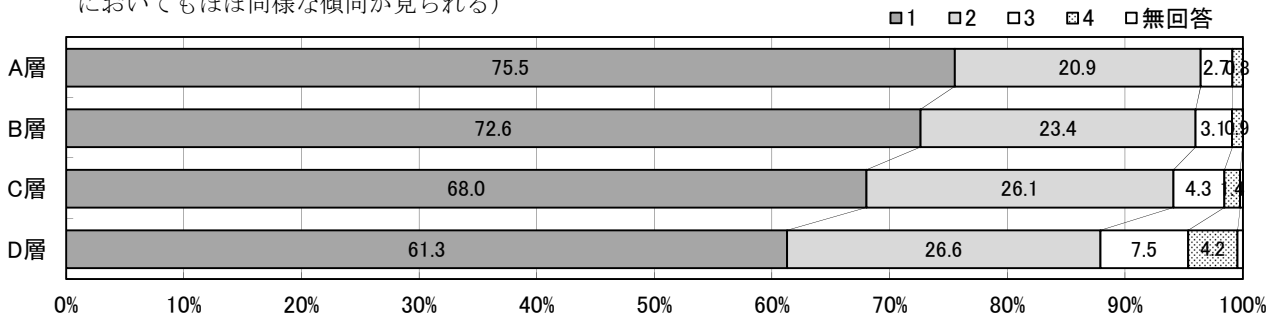
- 「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」と回答している児童生徒の方が、正答率が高い傾向がやや見られる。

27 「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」と小5における教科の平均正答率とのクロス集計結果（中2においてもほぼ同様な傾向が見られる）



○ 「人の役に立つ人間になりたいと思っている」と回答している児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。

28 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」と小5における教科の平均正答率とのクロス集計結果（中2においてもほぼ同様な傾向が見られる）

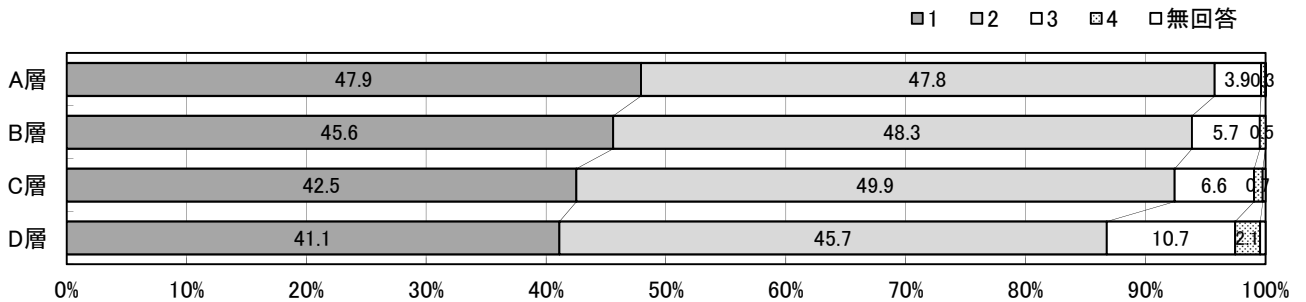


○ 「学校のきまり（規則）を守っている」と回答している児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。

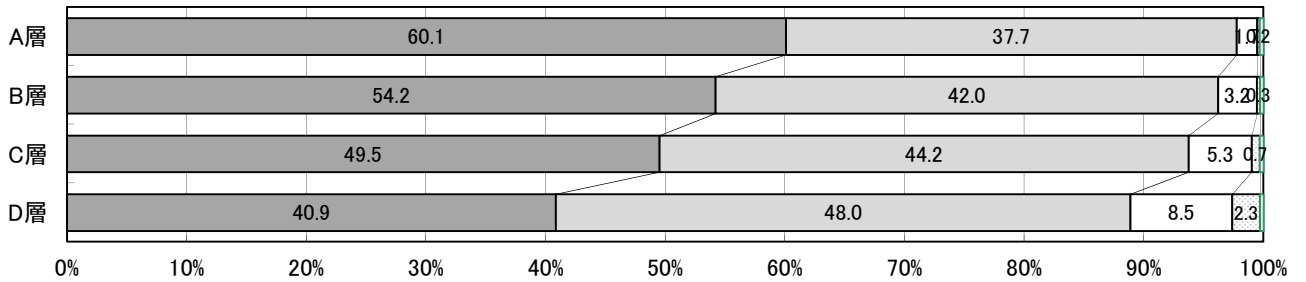
30 「学校のきまり（規則）を守っていますか」と小5における教科の平均正答率とのクロス集計結果（中2においては、より顕著である）

《選択肢》 1：当てはまる 2：どちらかと言えば当てはまる 3：どちらかと言えば当てはまらない 4：当てはまらない

※ 正答率の高い順に、その人数を25%刻みで4つの層に分けています。上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層としています。



《中2におけるクロス集計結果》



(2) 学校質問紙調査の結果

① 「学力向上に向けた5つの提言」と関連する事項

- 児童生徒に積極的に声を掛け、励ましている学校、また一人一人に声を掛け、話をよく聞いている学校の割合は、ほぼ10割で大変高くなっている。
- 児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け、積極的に評価している学校の割合は高く、経年比較から意識して取り組んでいる様子が見える。
- 授業の冒頭で目標を示す活動を計画的に取り入れている学校の割合は、小5でほぼ10割、中2も9割を超えて高くなっているが、経年比較では中2はマイナスとなっている。
- 授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れている学校は、小5、中2とも8割を超えている。経年比較から中2の取り組みの充実が見える。
- 家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えている学校の割合は、小5、中2とも9割を超え、経年比較からも充実の様子が見える。

質問事項	年度	小学校5年生		中学校2年生	
		回答	経年比較	回答	経年比較
1 児童生徒一人一人に積極的に声を掛け、励ましましたか	H27	99.2	0.3	100.0	2.8
	H26	98.9		97.2	
2 児童生徒一人一人の声に耳を傾け、話をよく聞く聴きましたか	H27	98.1	2.1	99.3	1.4
	H26	96.0		97.9	
3 学校生活の中で、児童生徒一人一人の良い点や可能性を見付け、伝えるなど積極的に評価しましたか	H27	98.1	2.5	97.2	4.9
	H26	95.6		92.3	
4 授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れましたか	H27	99.6	4.0	93.0	-2.1
	H26	95.6		95.1	
5 授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか	H27	86.9	1.9	83.9	4.9
	H26	85.0		79.0	
6 前年度までに、自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか。	H27	94.0	6.1	88.1	0.7
	H26	87.9		87.4	
7 前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか（国・算共通）	H27	88.3	-3.3	69.3	1.5
	H26	91.6		67.8	
8 前年度までに、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか	H27	93.3	1.7	94.4	1.4
	H26	91.6		93.0	
9 前年度までに、児童の家庭学習を促すような働きかけをしましたか（各教科共通）	H27	97.7	1.0	93.7	0.0
	H26	96.7		93.7	

② 震災の影響と関連する事項

- 震災前に比べ、児童生徒の家庭学習の時間の確保が難しくなっている学校の割合は、小5、中2とも1割台で、経年比較でもマイナスとなっている
- 授業に集中して取り組めない児童生徒が多くなったとしている学校の割合は、小5、中2とも1割程度であり、経年比較でもマイナスとなっている。

質問事項	年度	小学校5年生		中学校2年生	
		回答	経年比較	回答	経年比較
10 震災前に比べて、あなたの学校では児童生徒の家庭学習の時間の確保が難しくなっていますか	H27	10.1	-1.6	17.5	-3.5
	H26	11.7		21.0	
11 震災後、あなたの学校では授業に集中して取り組めない児童生徒が多くなったと思いますか	H27	10.3	-1.8	9.8	-4.9
	H26	12.1		14.7	
12 震災の影響（地震・津波・放射線）と思われる、気になる様子が見られる児童生徒の割合	H27	1.2	0.5	1.0	0.5
	H26	0.7		0.5	

質問事項12の結果を得た質問の内容

「現在、震災の影響（地震・津波・放射線）と思われる、以下のような気になる様子が一つでもある生徒は何人いますか。」

- ① 災害のことを突然思い出して動揺する。
- ② 災害を連想させる事柄や場面に出会うと、あわてて話題を変えたり、その場から立ち去ろうとする。
- ③ 喜怒哀楽がなくなり、無表情になった。
- ④ 些細な音でビクツとしたり、過敏に警戒するようになった。

③ 指導方法と関連する事項

- 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導に取り組んでいる学校の割合は、小5、中2とも高く、9割を超えている。小5では、経年比較から取組の充実がうかがえる。
- 中2の数学、英語の指導において、前年度に習熟の程度に応じた指導を行っている割合が低く、経年比較でもマイナスとなっている。

質問事項	年度	小学校5年生		中学校2年生	
		回答	経年比較	回答	経年比較
13 国語の指導として、前年度までに書く習慣を付ける授業を行いましたか	H27	90.7	1.3	96.6	-0.6
	H26	89.4		97.2	
14 国語の指導として、前年度までに様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか	H27	83.5	5.1	86.7	4.2
	H26	78.4		82.5	
15 国語の指導として、前年度までに、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか	H27	91.0	5.7	91.6	2.1
	H26	85.3		89.5	
16 算数・数学の授業において、前年度に、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか	H27	64.0	9.4	24.5	-7.0
	H26	54.6		31.5	
17 算数・数学の授業において、前年度に、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱いましたか	H27	55.4	3.4	16.8	-7.7
	H26	52.0		24.5	
18 算数・数学の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	H27	69.3	-5.8	67.1	-1.4
	H26	75.1		68.5	
19 算数・数学の指導として、前年度までに、計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか	H27	98.1	-0.4	96.5	-0.7
	H26	98.5		97.2	
20 英語の授業において、前年度に、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか	H27			19.6	-2.8
	H26			22.4	
21 英語の授業において、前年度に、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱いましたか	H27			17.5	-2.8
	H26			20.3	
22 英語の授業において、前年度に、英単語等の反復練習などをする指導を行い、基礎・基本を習得適すようにしましたか	H27			95.8	1.4
	H26			94.4	
23 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導を行いましたか	H27	90.3	6.4	94.4	0.0
	H26	83.9		94.4	

⑤ 学力向上に向けた取り組みと関連する事項

- 学校図書館を活用した受領を計画的に行っている学校の割合は、小5、中2とも高い。経年比較から計画的な取り組みが一層進んでいる様子がうかがえる。
- 放課後を利用した補充的な学習サポートを実施している学校の割合は、小5、中2とも8割を超え高くなっている。特に小5は、経年比較も大きくプラスとなっている。

質問事項	年度	小学校5年生		中学校2年生	
		回答	経年比較	回答	経年比較
24 前年度に、学校図書館を活用した授業を計画的に行いましたか	H27	97.0	0.3	75.5	3.5
	H26	96.7		72.0	
25 前年度に、放課後を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか	H27	86.1	5.5	86.0	0.0
	H26	80.6		86.0	
26 前年度に、長期休業日を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか	H27	64.0	0.6	72.0	-3.5
	H26	63.4		75.5	

(3) 児童生徒質問紙調査結果と学校質問紙調査結果のかい離

- 児童生徒一人一人に積極的に声を掛け、励ましていると回答した学校の割合は、ほぼ10割であるが、先生から声を掛けられたり、励まされたりしていると回答している児童生徒の割合は小5、中2ともに約7割でありかい離がある。
- 授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れていると回答した学校の割合は8割を超えているが、授業のおわりにその時間の学習内容を振り返る活動が行われていると回答した児童生徒の割合は、5割から6割台でありかい離がある。
- 国語の指導として、書く習慣を付ける授業を行っているという回答した学校の割合は9割を超えているが、国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていると回答した児童生徒は7割台でありかい離がある。

質問事項	小学校			中学校		
	小5	学校	かい離	中2	学校	かい離
1 ・先生から声を掛けられたり、励まされたりしますか ・児童生徒一人一人に積極的に声を掛け、励ましましたか	73.7	99.2	-25.5	70.7	100.0	-29.3
2 ・先生はあなたの話を聞いてくれますか ・児童生徒一人一人の声に耳を傾け、話をよく聞く聴きましたか	91.7	98.1	-6.4	85.4	99.3	-13.9
3 ・先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか ・学校生活の中で、児童生徒一人一人の良い点や可能性を見付け、伝えるなど積極的に評価しましたか	84.8	98.1	-13.3	80.2	97.2	-17.0
4 ・授業のはじめに先生から（めあて・ねらい）が示されていると思いますか ・授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れましたか	82.1	99.6	-17.5	78.9	93.0	-14.1
5 ・授業のおわりにその時間の学習内容を振り返る活動が行われていると思いますか ・授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか	66.7	86.9	-20.2	57.0	83.9	-26.9
6 ・授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか。 ・児童生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めましたか	82.3	95.5	-13.2	85.0	97.9	-12.9
7 ・授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思いますか ・学級やグループで話し合う活動を授業などで行いましたか	84.5	94.4	-9.9	82.8	92.4	-9.6
8 ・国語の授業で自分考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか ・国語の指導として、書く習慣を付ける授業を行いましたか	75.4	90.7	-15.3	71.3	96.6	-25.3
9 ・算数・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか ・算数・数学の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	74.4	69.3	5.1	45.6	67.1	-21.5
10 ・家庭学習をする上で悩んでいることはありますか。最も近いものを選んでください（括弧内に示した「家庭学習の方法が分からない」を選択した児童生徒を除く割合） ・前年度までに、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか	95.8 (4.2)	93.3	2.5	85.8 (14.2)	94.4	-8.6
11 ・将来の夢や目標を持っていますか ・将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか	92.6	90.3	2.3	75.2	94.4	-19.2

5 今後の対応

- 「全体」、「基礎・基本」、「思考力・判断力・表現力」の正答率は、全ての教科で期待値と5ポイント以上の有意差は見られなかったものの、「基礎・基本」は小5の算数を除いて期待値を下回っていることから、「基礎・基本」を確実に定着させる必要がある。「5つの提言」の徹底、意欲を高める学習課題の工夫、個に応じた指導の工夫などにより指導の充実を図る。
- 小5の国語、中2の英語の「書くこと」の領域に課題が見られる。国語では「書くこと」を意識した指導が行われてきていることから、今後は書く目的や内容を明確にした指導を一層充実させていく。また、英語では「読むこと」の指導と関連を図りながら「書くこと」の技能の向上を図る指導を充実させていく。
- 中2の数学の「関数」の領域に課題が見られる。中学校の「関数」領域の指導を、小学校の「数量関係」領域の指導との系統性・連続性を踏まえ、9年間を見通した指導ができるよう指導計画を作成するとともに関数の意味を確実に理解できるように指導の充実を図る。
- 「5つの提言」については、経年比較から各学校における取組が充実してきたことがうかがえるとともに肯定的に受け止めている児童生徒も増加している。今後も指導主事訪問や各種研修会の機会をとらえて一層の充実を働き掛けていく。
- 個に応じた指導が不十分なところが見受けられるため、学習内容の定着に向け、学校の状況や児童生徒の実態に応じた指導の充実を図っていくよう各学校へ促していく。
- 震災の影響に関する質問では、小5では、影響を感じていると回答した割合が増えている。一方、中2では、徐々に減ってきている。今後も児童生徒の姿を注意深く見守りながら、これからも子供の心のケアに努め、家庭学習を含め、落ち着いて学習ができるよう学習環境の整備をより一層進めていく。
- 中2の携帯電話やスマートフォンの利用時間が減少しており、小5もテレビの視聴時間、テレビゲームの時間が減少している。スマートフォンの安全な使用や基本的な生活習慣の形成に関するリーフレット等の周知と活用を働き掛け、基本的な生活習慣、学習習慣の形成を一層図っていく。
- 本報告書で示された各教科における具体的な対策と全国学力・学習状況調査の検証改善委員会報告書を連動させながら、各学校が検証改善サイクルの充実を図れるよう促していく。
- 今後とも、市町村教育委員会と連携し、学力向上に向けたこれらの取組を着実に進めていく。

《平成27年度宮城県検証改善委員》

吉村 敏之 (宮城教育大学教職大学院 教授)「座長」
本田 伊克 (宮城教育大学 准教授)
佐々木博明 (登米市立米川小学校 校長)
三浦 仁 (塩竈市立第一中学校 教頭)
千葉 純也 (亶理町立逢隈小学校 主幹教諭)
尾口 洋行 (大崎市立古川第一小学校 教諭)
佐藤 拓也 (白石市立東中学校 教諭)
軽部 敦子 (仙台教育事務所 主幹)
和田 祐子 (北部教育事務所 主幹)
千葉 博彦 (東部教育事務所 主幹)
目々澤辰悟 (南三陸教育事務所 主幹)
千葉 睦子 (義務教育課 課長補佐)
新井 雅行 (義務教育課 課長補佐)
岩間 孝一 (総合教育センター 副所長)
小野 寺一浩 (総合教育センター 副参事)
林 恵美子 (総合教育センター 次長)
山田 善弘 (総合教育センター 主幹)
千葉 純子 (総合教育センター 主幹)
稲辺 正浩 (総合教育センター 主幹)
阿部 朋樹 (総合教育センター 主幹)

資料

『学力向上に関する緊急会議』からの提言

宮城県教育委員会

本県の学力の状況については、これまで改善傾向にあったものの、今回の学力調査では一転してほとんどの教科で全国値を下回る結果となりました。

そのため、県教育委員会では、学力向上を図るための緊急会議を平成25年10月2日に開催しました。

この緊急会議においては、本県児童生徒の状況や学力等について、精神科医、大学教授、地教委教育長、PTA代表、小中学校教員等で話し合い、今の子供たちに対しては、心のケアを行いつつ、分かる授業を行うことが重要であることを確認しました。

子供たちが安心して学校生活を送り、学習意欲や自信を持たせるためには、教師と子供、子供同士の好ましい人間関係を築くとともに、分かる・できる授業づくりを積み上げていくことが必要です。人間関係づくりや授業改善は一朝一夕にはできませんが、その足がかりとして、すぐに着手できることはあります。

各学校のすべての先生方に、明日からすぐに取り組んでいただきたい事項を「学力向上に向けた5つの提言」としてまとめましたので、実践化に努めるようお願いいたします。

学力向上に向けた5つの提言

1 どの子供にも積極的に声掛けをするとともに、子供の声に耳を傾けること。

どの子供にも一日一回は声を掛け、子供の話をじっくり聞くことが、心のケアや人間関係づくりにつながります。

2 子供をほめること、認めること。

子供は、ほめられると集中力が高まります。授業中にほめたり認めたりすることは、学習評価のひとつです。

3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること。

本時のねらいをより具体的に設定し、1単位時間で育てる力を明確にします。授業の終末には、子供の学びを的確に把握し後の指導に生かすようにしましょう。

4 自分の考えをノートにしっかり書かせること。

黒板を書き写すだけでなく、自分の考えをノートに書くように指導します。書くことは、思考力、表現力を育てます。ワークシートではなく、ノートづくりを徹底しましょう。

5 家庭学習の時間を確保すること。

学校で学んだことを家庭で復習することは、知識や技能の定着につながります。予習は、授業での理解を早めます。何よりも保護者から、子供に声を掛けたり子供の努力を認めたりすることが、家庭学習への意欲づけになります。そのことを保護者に伝えましょう。また、各学校で作成している「家庭学習の手引き」の中に、家庭学習のメニューを具体的に記載するとともに、適度な量の宿題を課しながら家庭学習を習慣づけましょう。

全ての教室で取り組む学力定着

算数・数学 ステップ・アップ

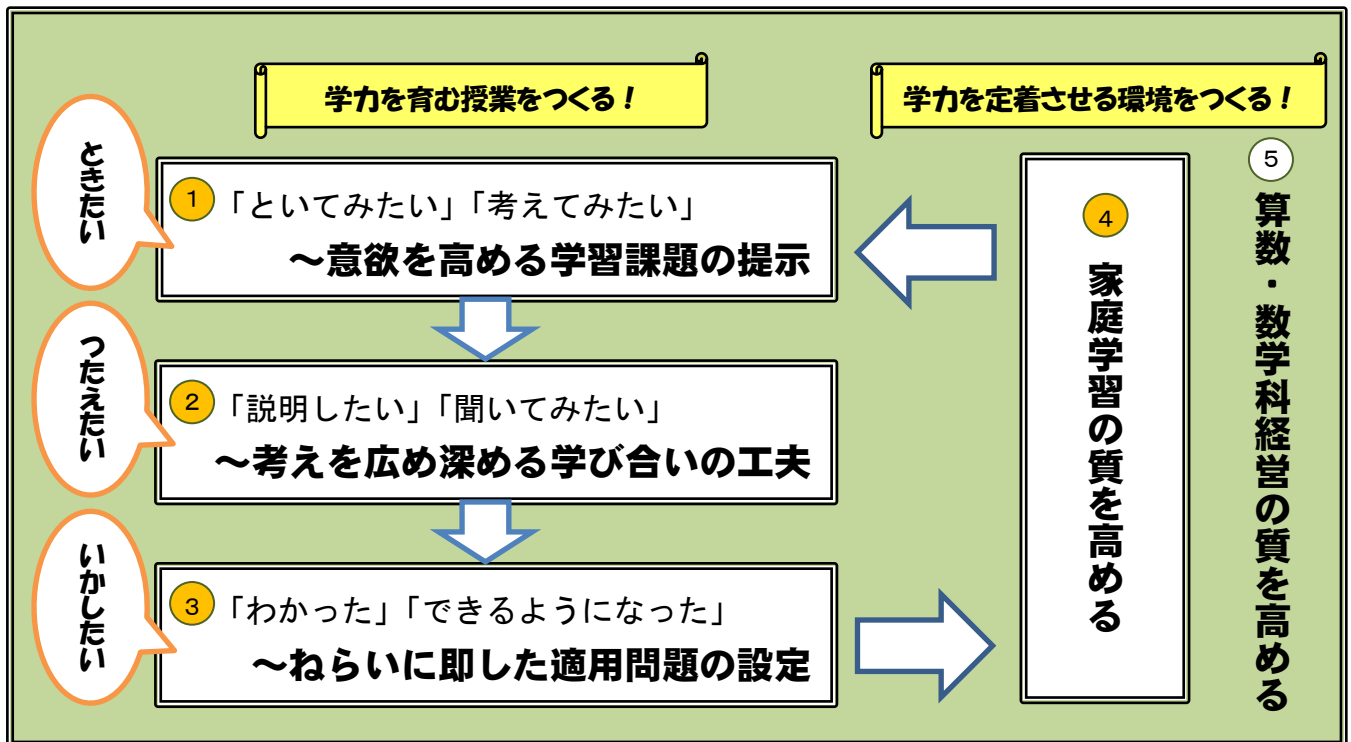
5

ファイブ

宮城県教育委員会では、本県の喫緊の課題である算数・数学の学力が向上しないことについて、宮城県学力向上対策協議会を立ち上げ、4回にわたり協議を重ねて、「学力向上対策」をとりまとめました。

この資料は、全ての教室ですぐに取り組んでいただきたい「学力向上対策」を、よりイメージしやすくするために、具体的な実践例とともにまとめたものです。

<学力向上対策>



平成27年7月

宮 城 県 教 育 委 員 会

1 「といてみたい」「考えてみたい」～意欲を高める学習課題の提示

○算数・数学の授業は、問題解決への興味・関心や必要感をもたせることが大切です。生活場面に即した問題や知的好奇心に訴える問題など解きたくなる工夫をするとともに、既習事項と関連させながら解決への見通しをもたせましょう。一人一人に課題をしっかりとつかませることが問題解決への意欲につながります。

<実践例1> 追究意欲をもたせる「問題場面→課題の設定」の工夫（小学校）

○問題場面で大切にしたいこと ～できるだけ生活にある事象を使う

<例> 5年割合（補充的・発展的学習の段階）
 A店 2500円の30%引きのみを提示
 （これまでの学習を振り返らせて 答えを求めさせる）
 次に B店 20%引きから、さらに10%引き
 C店 1割引きから、さらに2割引きを提示

<児童の反応>

- ・スーパーに夜行くと、同じようなことがある。
- ・B店もC店も、割引きを合わせるとA店と同じになるのでは。
- ・「さらに」という言葉が気になる。
- ・どの店に行くと安く買えるのかな。（この言葉を学習課題に）

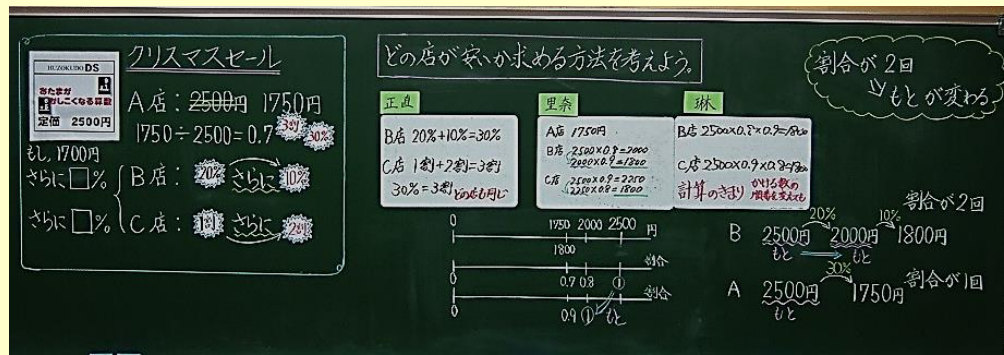
○問題場面の問いを学習課題にするために

<発問例>

「昨日の問題とどこが違うかな」
 「昨日の作戦が使えるかな」
 問いから学習課題を設定することを続けていくと、学習課題を児童が話すようになる。

☆ポイント1☆

学習課題は、既習事項などを基に、児童から問いや気付きを引き出す。



☆ポイント2☆

板書とノートの一体化
 （黒板3分割）

- ・左上に問題場面
- ・中央に学習課題
- ・その下に児童の考え
 ※チョークの色は
 学校で決めて
 おきたい。

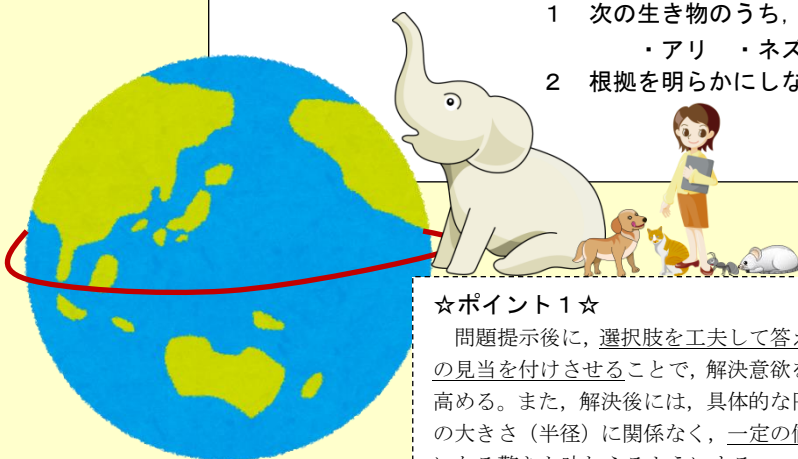
<実践例2> 学習問題の提示から解決意欲を高めるための工夫（中学校）

(例) 2年「式の利用」

学習問題：地球を球と考える。赤道より10mだけ長いひもを準備し、地球の周りに均等に置く。

このとき、地球とロープのすき間はどのくらいか

- 1 次の生き物のうち、すき間をちょうど通れるのはだれだろう。(直感)
 ・アリ ・ネズミ ・ネコ ・イヌ ・先生 ・ゾウ
- 2 根拠を明らかにしながら求めよう。(数学的思考)



☆ポイント1☆

問題提示後に、選択肢を工夫して答えの見当を付けさせることで、解決意欲を高める。また、解決後には、具体的な円の大きさ（半径）に関係なく、一定の値になる驚きも味わえるようにする。

☆ポイント2☆

生徒が実際の赤道の長さや地球の半径を使ったがったときは、その値を提示し、計算することの面倒さをあえて感じさせる。その上で集団解決における比較検討を通して、赤道の長さなど具体的な値を用いなくても、文字を使うことにより、簡潔に課題を解決できるよさを味わわせたい。

2

「説明したい」「聞いてみたい」～考えを広め深める学び合いの工夫

○展開の場面では、考えを広めたり深めたりする言語活動の充実が大切です。自力解決の場面では自分の考えをノートに書かせて整理させるとともに、集団解決の場面では式や図、表などを使って数学的に自分の考えを説明させることによって、学習内容の確かな定着を図りましょう。互いの考えのよさに気付かせる学び合いの場をつくることで、学びの質が高まります。

＜実践例1＞ 児童の学び合いを活性化させる工夫（小学校）

○集団解決で求めること

考えたことを数や式、図などを用いて友達に説明することにより、よりよい考えを作ったり、筋道を立てて考えたりできるようになる。

★ポイント1★ これまでの取組で意識してきたこと

- ・具体物、数、式、図、表、グラフなどを用いて表現させる。
- ・友達の考えを聞いたり、式や図から読み取ったりすることに日頃から意図的に取り組ませる。
- ・自力解決の際、机間指導で見取った考えを基に意図的に指名する。

★ポイント2★

- ×自力解決できた児童だけ発表
- 友達の考えを図や式などから読み取り、他の児童に発表させる

学び合いの段階で、友達の考えを聞いたり読み取ったりすることで、本時のねらいに迫ることができる。

＜例＞6年「速さの表し方を考えよう」

本時のねらい

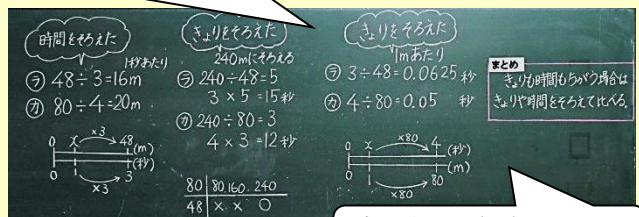
距離と時間のどちらも異なる場合の、速さの比べ方を考える。

実際の発問

児童から「3つの考え」（最小公倍数を使って比べる考え、1m当たりで比べる考え、1秒当たりで比べる考え）が出るよう意図的に指名をする。

その後、共通点に気付かせるため、「3つの考えとも、まず何をしてから比べているかな」と発問する。

時間と距離のどちらをそろえたかについて確認して板書に残し、「3つの考え」の共通点について気づきを促す。



式を立てた児童とは別の児童に図で説明させる。

＜実践例2＞ 集団解決を通して確かな考え方に変える取組の工夫（小学校）

○集団解決で求めること

自力解決で考えた（不確かな考え）を確かな考え方にしていく。

【指導者は】

ねらいを達成するために、児童の考えをいくつどの順番で取り上げていくのか、自力解決の際に机間指導をしながら考える。

★ポイント1★

「発表会」では確かなものにならないので要注意！

★集団解決の冒頭を授業記録に表しました。思考力が育つのはどちらでしょう。

(Aパターン)

- C1: 黒板に考えを書く。
 T: C1さんの考えについて、質問や分からないことはありませんか。
 C2: ○○が分かりません。
 C3: 私は、○○のところが不思議です。
 T: では、この二人の悩みをC1さん以外に解決できる人いますか。
 C4: C1さんの○○は、このように考えたのだと思います。
 C5: 私もC1さんと同じように考えたのですが、図を使って説明すると○○だと思います。
 T: C2さんC3さん、今までの話を聞いて分かりましたか。C2さんどのような考えだったのか、発表してみましょう。(これを繰り返していき...)
 T: みなさんの考えを見ると、共通した考えが見えてきませんか。今日の学習課題について、自分の言葉でノートにまとめましょう。(その後、何人かに発表させて、児童の言葉を板書する)



(Bパターン)

- C1: (黒板に考えを書き説明する)。私の考えはどうですか。
 C全: いいです。
 T: C1さんの考えは、○○ですね。(C1の考えを説明する。)(これを繰り返していき、教師の言葉でまとめる。)

※Cは児童、Tは教師の発言

★ポイント2★

自力解決で自分の考えが定まらなかった児童をどう関わらせるか、類似した考えをどのように関わらせていくかを複線的に考えておく。

3

「わかった」「できるようになった」～ねらいに即した適用問題の設定

○本時のねらいが達成できたか、終末では子どもと一緒に確認することが大切です。適用問題により本時のねらいとした学習内容が身に付いたか確認し、個に応じた指導を行うことで、学習したことが確かに「わかった」という実感をもたせましょう。本時の学習について、ねらいに立ち返って振り返らせることで、学んだ内容をしっかり定着させることができます。

＜実践例1＞ 学習感想を書かせることを通した振り返る活動の工夫（小学校）

＜例＞1年「どちらがながい」

本時のねらい

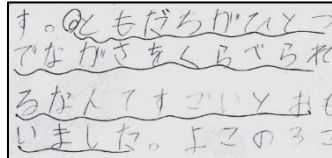
任意単位での測定の仕方を考える。

実際の発問

- T：横はペン1本分、消しゴム1個分長いんだね。
- C：同じもので「いくつ分」にすればいいんじゃないの。
- C：え～。（ざわざわ）
- C：先生、黒板消しでやってみてもいいですか。



黒板消しで測定する様子



☆ポイント☆

何をどう書けば良いのか、観点を明示する。

＜例＞児童に示す学習感想を書く際の観点（高学年用）

分かった できた

- ・～が分かった（分からなかった）。
- ・～まで分かった。
- ・～が難しかったけれど、やっているうちに～。
- ・～と同じところは～で、～と違うところは～。

発見した

- ・○○から～だと思った。
- ・○○ということに気付いた。
- ・前に習った○○を使ったら～。
- ・この考えの良いところは～。
- ・～すると便利だ。

話し合っ

- ・○○さんの考えを聞いて～と思った。
- ・○○さんと似ていて（違って）～。
- ・○○さんの考えの良いところは～。
- ・～さんの図を見て。
- ・～の場面でも使えるかな。

次は もっと

- ・～をもっと調べたい。
- ・～を練習したい。
- ・～のときはどうやって考えるのだろう。
- ・次は～をやりたい。

○学習感想を書くことの意味

自分の学習を振り返って言語化すること。
自分を客観的に見ることで、自分の変容に気付く。

書かせる上で意識してきたこと

- ・形骸化しないよう観点を示す。
- ・学習感想を書く内容について観点を示す。
- ・本時のねらいに応じた学習感想を児童に発表させるなどして学びの共有化を図る。
- ・学びのよさを見取って朱書きする。

＜実践例2＞ 適用問題の解決を通して分かったつもりを解消するための工夫（中学校）

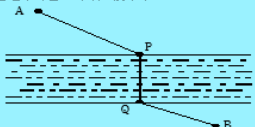
条件や設定を変えたり…
逆を考えたり…
点を動かしたり…

問題のアレンジ

- 生徒の実態に応じた適用問題を設定することが大切。
- 適用問題を解決していく中で、一般化する。
- 基礎・基本を明確にし、本質を見抜く力を付ける。

【直線1本→直線2本】

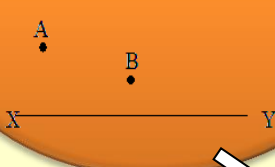
両岸が平行な川を隔てて、2地点A、Bがある。岸に垂直な橋PQをかけ、AからBへ橋PQをかけたとき、道のりが最小になるのは？



直線XY上の点Pを探そう

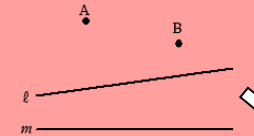
点A、Bが直線XYの同じ側にある場合

AP+BPの最小となる点Pは？



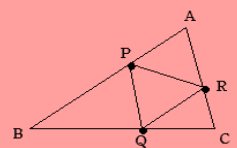
【直線1本→直線2本】

AP+PQ+QBが最小となる点P、Qは？
(点P：直線ℓ上、点Q：直線m上)



【直線→三角形】

図のような点Pのとき、PQ+QR+RPが最小となる点Q、Rは？
(点Q：BC上、点R：CA上)

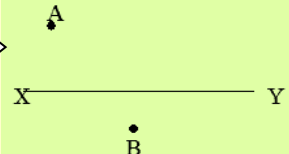


【同じ側→反対側】

直線XY上の点Pを探そう

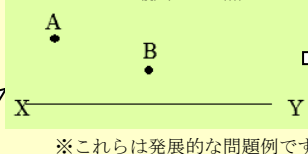
点A、Bが直線XYの反対側にある場合

AP-BPが最大となる点Pは？



【「+」→「-」】

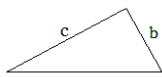
AP-BPが最大となる点Pは？



※これらは発展的な問題例です

☆ポイント☆

- 自分で考えたり、友達の意見を聞いたりして「なるほど」と思い、自分で解いてみることで、学びを実感する。
- 原理・原則は同じであることに気付かせる。



$c+b > a$ 2辺の和は残りの辺より大きい
 $c > a-b$ 2辺の差は残りの辺より小さい

4 家庭学習の質を高める

○家庭学習への意欲を高めるためには、授業と関連した課題を工夫し、取り組んだことを授業の中に生かし、認めることが大切です。また、集中して取り組める時間と場を確保するため、スマホやテレビなどとのつきあい方を考えさせるなど、家庭と協力して落ち着いて学習できる環境をつくりましょう。自律的な生活習慣を確立することが、学力向上の基盤となります。

<実践例1> 町ぐるみで「家庭学習の手引き」を作成し、その重要性を啓発している取組

【町オリジナルの「家庭学習の手引き」】

- ・ 1年生用 ・ 2年生用
- ・ 3, 4学年用 ・ 5, 6学年用
- ・ 中学生用



中学生用「家庭学習の手引き」から

○なぜ家庭学習が必要な？

- 1 「生きる力」につながるふたつの「じりつ」が育ちます。
- 2 家庭での「復習」が学習したことを定着させます。

○家庭学習はどうやればいいの？

継続は力なり！時間を決めて計画的に

- 1 決まった時間に学習しよう。
- 2 学習環境を整えよう。
- 3 家庭学習の流れをつくろう。
- 4 目標を持って学習計画を立てよう。

自主学習ノートを工夫して作ろう

- 1 家庭学習のはじめの一步は自主学習ノートから。
～くふうしてまとめることで要点がつかめるようになる！～

家庭学習で将来に生きる深い学力を

- 1 新聞や本を読んだり、日記を書いたりしよう。
- 2 家の手伝いをしよう。家族とのコミュニケーションをとろう。

自校化

<実践例2> 町教育委員会の方針を受けて、自校化の視点から「授業と家庭学習のサイクル形成」に取り組んでいる事例（中学校）

○自校の視点

各教科や単元の特性に応じて2つのサイクルを活用し、生徒に学習の見通しをもたせる。

1 「わかる」授業を目指した「予習型宿題サイクル」

《授業》 《家庭学習》 《授業》

次時の授業内容に必要な既習事項・関連事項を調べる宿題を提示する。

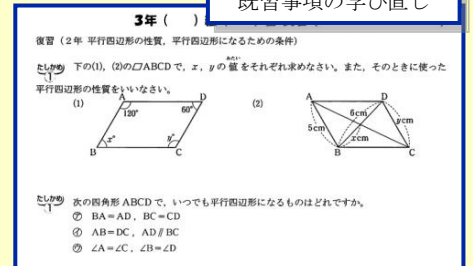
宿題に取り組む
・ 既習事項の学び直し
・ 関連事項の調査やまとめ

宿題に取り組んだ内容を取り上げながら、学習課題を深める。

・ おもしろそうだから
・ これならできそうだから
・ 忘れていたことを思い出した！

・ 家でやってきたことが、授業とつながった！
・ 自分の取組が授業で取り上げられた！
・ 授業の内容が「わかった！」

【予習型宿題】
既習事項の学び直し



2 「できる」授業を目指した「復習型宿題サイクル」

《授業》 《家庭学習》 《授業》

本時の内容を再度確認・定着を図る宿題の提示

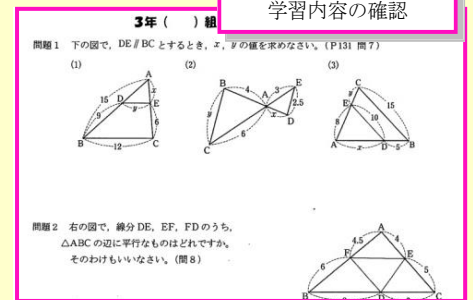
宿題に取り組む
・ 学習内容の確認
・ 反復練習

宿題を答合わせして、解答を全員で確認することや、小テストでチェックをする。

・ 授業のとおりでできた！
・ 少し忘れていたから明日質問してみよう

・ 前回勉強したことが「できた！」
・ 覚えたつもりだったのに間違えた。家で、もう一回復習しよう

【復習型宿題】
学習内容の確認



5

算数・数学科経営の質を高める

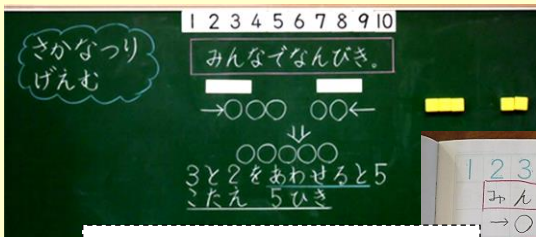
○算数・数学の指導の在り方について、4月に全職員で共通理解を図ることが大切です。その学年で身に付けさせるべき基礎・基本と指導の系統性を確認し、授業づくりや習熟を図る学習などに全校体制で取り組みましょう。子どもの実態を踏まえた具体的な目標と手立てを設定し、全ての教室で実践することで、学習したことがしっかりと積み上げられていきます。

<実践例1> 学習したことを確かに積み上げるため、年度始めに教科経営について確認をし全ての教室で確実に取り組んでいる事例

- 1 各種調査の結果から自校の課題を見だし、目指す子どもの姿に迫るための指導の重点を全職員で確認をする。
- 2 この学年で必ず身に付けさせたい学習内容や学習技能等を確認し、系統性を大切にした指導に取り組む。

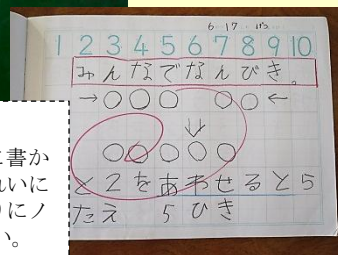
(例) 小1…1位数と1位数の加法・減法, 小2…かけ算九九, 小5…異分母の分数の加法・減法 等
ノートの取り方, 三角定規やコンパスの使い方, グラフのかき方 等

<例1> 1年生の板書とノート



☆ポイント1☆

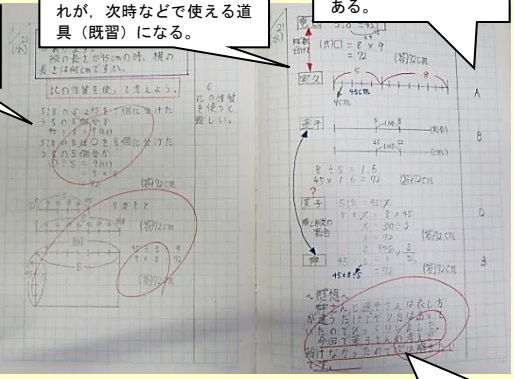
ノート指導の基本は子どもに書かせること。慣れれば短時間できれいに書けるようになる。黒板のとおりノートをとらせることから始めたい。



自分の考えを言葉や図などで書かせる。

友達の考えも写させる。これが、次時などで使える道具(既習)になる。

<例2> 6年生のノート



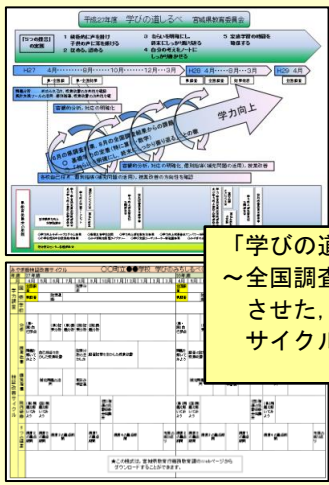
ノートの右側は評価欄
課題に対して自己評価
☆4段階で評価
A: 自信あり
B: まあ自信あり
C: ちよつと不安
D: 不安
その理由を付す場合もある。

感想を書かせる。この学習で、どのようなことが分かったのか、分からなかったのか。次時の学習に生かしていく。

☆ポイント2☆
継続して普段から見合えることが大切です。

- 3 年度始めに継続勤務の教員が授業を行い、それを転入職員が参観する。学校としての基本的な学習の約束事や授業の流れを具体的に確認することで、学年が上がっても児童生徒の中に学習方法が確実に積み上げられていく。
- 4 授業時間内に学習内容を定着できなかった児童生徒について、全校体制で補充的な指導を行い確実に身に付けさせる。

<実践例2> 宮城県教育委員会の学力向上資料を活用しながら自校化を

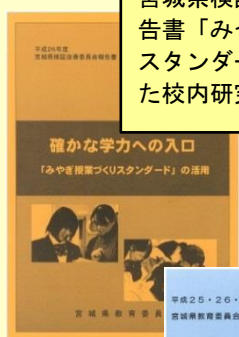


「学びの道しるべ」の活用～全国調査と県調査を連動させた、自校の検証改善サイクルの確立

「学力向上に向けた5つの提言」の日常実践化



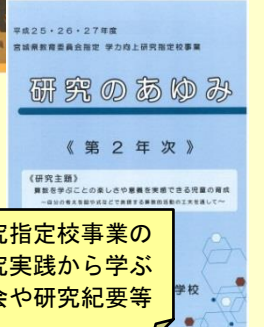
宮城県検証改善委員会報告書「みやぎ授業づくりスタンダード」を活用した校内研究の活性化



「授業改善に役立つアイデア事例」等を活用した授業改善



学力向上研究指定校事業の指定校の研究実践から学ぶ～公開研究会や研究紀要等



詳しくは 宮城県教育庁義務教育課 検索

基礎・基本の確実な定着を図るために

本調査では、「基礎・基本」については、5ポイントの有意差は見られなかったものの、小5・中2ともに全ての教科で全国値を下回り課題が見られました。

基礎・基本は思考力・判断力・表現力等とともに、学力の重要な要素の一つであることから、子供一人一人に確実に習得・定着させることが大切です。

そのためには、「子供へ声を掛ける」や「子供を認める」などの学習意欲を高める工夫や重点的な指導、繰り返し指導などを位置付ける指導計画の工夫、少人数指導、ティーム・ティーチングなどの指導体制の工夫など、子供一人一人に応じた指導を充実させ、魅力ある学校づくりを推進していく必要があります。

1 学習意欲を高める工夫

○ 「子供に声掛けし、声を聴く」「子供をほめ、認める」の実践

- ・授業の中で「5つの提言」にある「子供に声掛けし、声を聴く」を心がけ、一人残らず全員への声掛けを実践する。
- ・子供の発言や取組等を「ほめ、認める」ことを積極的に行い、一人一人に自己有用感を味わわせる。
- ・教師が「ほめ、認める」ことを実践することにより、子供同士が認め合う雰囲気や学級に醸成する。



先生が笑顔でほめ方の手本を示しましょう。

特別な成果を上げた子どもだけをほめているといつも同じ子供をほめることになりがちです。小さなこと、当たり前に行っていることを探し出してほめましょう。

○ 学習の見通しをもたせる工夫

- ・本時で身に付けさせたい力、目指す児童生徒の姿を明確にし、ねらいを設定する。
- ・めあて・課題は子供の視点に立ち、1時間で何ができるようになればよいのか、ゴールまで見通せるように具体的な表現で示す。



「問題を解く」ことがめあてではありません。本時で何ができるようになればよいのが重要です。

問題（課題）提示により、「なぜだろう？」という疑問や知的好奇心を引き出すことが、「考えたい」「解決したい」という意欲につながります。

2 指導計画の工夫

○ 重点的な指導、反復練習などの指導計画への位置付け

- ・単元指導計画の中で確実に身に付けさせたい内容やつまづきやすい内容を明確にするとともに、重点的な指導や補充的な学習、反復指導などを位置付ける。
- ・1単位時間に重点的な指導、補充的な学習、適用問題の練習などを位置付ける。
- ・レディネステストを活用し、児童の実態に応じた問題や学習が遅れがちな子供のためのモデルステップの問題、補充的な学習を用意するなどきめ細かな指導を工夫する。

○ 身に付けた基礎・基本の活用

- ・次の学習や他の学習、生活の場で生きた知識として活用できることを実感できる機会を指導計画に位置付ける。
- ・身に付けた基礎・基本の定着を一層確実にする学習活動を指導計画に位置付ける。



学習したことが生活の中で役立っていることを実感させることが大切です。

3 指導体制の工夫

○ 個に応じた指導のための指導体制の工夫

- ・ティーム・ティーチングや少人数指導（習熟度別等）などの指導体制を工夫する。
- ・どの教科の、どの単元で（授業のどの場面で）どのような指導体制にすれば最も効果的に個人差に応じた指導ができるかを考える。



少人数指導を行うことが目的ではなく、少人数指導を一つ的手段として、児童生徒一人一人にどう対応し、どう学習を成立させるかが重要です。



クラス分けは児童の希望を生かしつつ適切に分けることが大切です。

- ・一斉指導だけでなく、個別指導やグループ別指導など指導形態を工夫する。

○ 教師の専門性を生かす指導体制の工夫

- ・教頭や教務等を活用した教科担任制を工夫するとともに、合同授業や交換授業など教師の専門性を生かした指導体制を工夫する。（小学校）
- ・司書教諭や養護教諭、栄養教諭等の専門性を有する教員を活用する。

4 繰り返し学習の充実

○ スキルタイム等の充実

- ・朝の活動や帰りの時間に短時間のスキルタイムを設定し、漢字や計算の繰り返し学習を行う。
- ・放課後学習や長期休業中のサマースクール、ウィンタースクールなどを設定し、主体的な学習の時間を設定する。



マンネリ化しないよう、評価を工夫するなどしてがんばった成果が実感できるようにし意欲を持続させることが大切です。

○ みやぎ単元問題ライブラリーや県調査の補充問題、全国調査の過去問等の活用

- ・みやぎ単元問題ライブラリーや県学力・学習状況調査の補充問題、全国学力・学習状況調査の過去問等を積極的に活用する。



毎日の積み重ねが大切です。「継続は力なり」です。

5 書くことの充実

○ 授業への「書くこと」の積極的な導入

- ・書くことで考えが促されたり、整理されたりするなど思考力を高めることから、書くことを指導過程に位置付ける。

- <自力解決の場面で>・教科書や資料、データをもとに、自分の考えを理由や根拠を明確にして筋道立ててまとめさせる。
 - ・図や式、言葉など多様な表現で相手にわかりやすく説明できるように書かせる。
- <集団解決の場面で>・相違点や共通点、新しい気付きなど友達の考えから学んだことをメモさせる。(色別などの工夫をする。)
- ・学び合いの後、考えを見直したり、書き加えたりさせる。



自分の考えの変容がわかるように書かせることがポイントです。色分けにするなどの工夫も効果的です。

- <振り返りの場面で>・新しくわかったこと、達成目標への自己評価、新しい疑問点や課題などを自分の言葉で書かせる。(感想のみにしないで具体的に)

○ ノート指導の工夫（発達段階に応じて）

- ・学びの過程がわかるようなノートの取り方を指導する。(学年や教科で共通理解を図る)
- ・ノートはできれば授業ごとに回収して評価することで、児童生徒の意欲や思考力、表現力を高めることができる。
- ・板書の視写も効果的に取り入れる。
(板書の構造化が求められる。)



机間指導しながら、一人一人の考えを見取り、賞賛の声掛けや、適切な助言をしましょう。

○ 「書くこと」の抵抗をなくす指導の充実

- ・国語は無論のこと、教科等でも書き方の指導を工夫をする。
- ・書き方を掲示したり、ファイルにさせ、どの授業でも使えるようにする。
- ・短文づくりや事実と感想を一文ずつ書かせる日記などを続け、書くことに慣れさせる。

「書くこと」指導のポイント

- * 字数や段落など条件に沿って書くことに慣れさせる。
- * モデル文を示し、まねさせることから始める。
- * 書き出しや「はじめに」「それから」などの接続語を示す。
- * 主語や述語の文を書かせ、次に主語、述語を詳しく書かせる。
- * 書き方は教えることよりも気付かせることで身に付く。
(二つの文を比較して良い書き方に気付かせるなど)

6 学習のきまり・学習環境の整備

○ 学習のきまり（やくそく）の徹底

- ・学習用具の準備や学習態度など、集団で学習するためのきまり（やくそく）を学年に応じた言葉や絵で示し、全職員で全学年の徹底を図る。
- ・小中連携を図り、9年間を見通した「学習のきまり（約束）」にするとともに、家庭への周知も図り、家庭とも連携をして指導を行う。
- ・児童生徒が自ら気づき、きまりを実践するよう児童生徒同士の声掛けを奨励する。



上級生が下級生に授業を見せ手本を示したり、下級生が上級生に見てもらってアドバイスをうけたりすることが効果的です。

○ 「話し方」「聞き方」の指導の徹底

- ・「話型」を提示するなど学年に応じた指導を全校で徹底する。
- ・「話し方」「聞き方」の指導は、相手の聞き手、話し手を意識させることを大切に行う。
- ・考えを述べるときは理由や根拠が大切であり、相手を納得させることを意識させる。

話し方のポイント

◆理由や根拠を述べる時

その理由は	なぜかという	なぜなら
例えば	第一に（第二に）	まず（次に）
もし～だったら	たぶん～	

◆理由や根拠を付け足す時

さらに	また	それに	付け足すと	何よりも
-----	----	-----	-------	------

◆比較・分類・関連付けるとき

○○さんの考えと同じで（違って）
○○と□□を比べると
△△に着目すると○○と□□は同じ（違う）仲間だから
◇◇と□□はつながって（関連して）いるから

◆結論（考えのまとめ）を伝えるとき

このように	以上のように	以上を考え合わせると		
まとめると	よって	したがって	だから	つまり

聞き方のポイント

- ◆相手の話が終わるまでだまって（目と耳と心で）聞く。
- ◆うなずいたり、あいづちをうったりしながら聞く。
- ◆気付いたことをメモしながら聞く。

○ 学習環境の整備の工夫

- ・各教室や少人数教室等の学習コーナーの充実を図る。（例えば、教科の重要事項をカード化して掲示するなど。）
- ・学習のまとめを児童生徒の言葉でまとめ掲示したり、クイズコーナーを設けたり、さらには児童生徒の優れたノートを紹介するなど、児童生徒の学習意欲を引き出す環境をつくる。

○ 読書環境の整備の工夫

- ・学校図書館の整備を図るとともに、教室に図書コーナーを設けるなど読書環境を整備する。
- ・読み聞かせや推薦本の紹介、多読者の表彰など児童生徒の本への関心を高め読書習慣を身に付けさせる工夫をする。



朝読書など全校一斉の読書は、落ち着いて学習へ向かおうとする態度の育成にも効果的です。

7 家庭学習の充実

○ 「家庭学習の手引き」「家庭学習計画表」の活用

- ・ 学習の手順や時間、学習内容等をまとめた手引き（児童生徒用、保護者用）を工夫し、家庭学習の習慣化を図る。
- ・ 主体的な家庭学習となるよう計画表や自主学習ノートなどを工夫する。



家庭学習の量や内容は、学年ごとに全職員で方針を統一しておきましょう。



「家庭学習ノート」はしっかりコメントを返すのが先生の役割です。先生のコメントを期待して子供は頑張ります。

○ 授業と家庭学習を連動させる工夫

- ・ 授業での学習内容を習熟させる問題（復習型）や次時の学習内容に関わる問題（予習型）などを家庭学習の課題にするなど、授業と家庭学習をつなぎサイクル化する工夫をする。
- ・ 家庭学習を授業で活用したり、評価したりするなど、家庭学習にやりがいをもたせる工夫をする。

